

# 年 報 23

2006年度  
(平成18年度)

2007. 11

山梨県埋蔵文化財センター

# 年 報 23

2006年度  
(平成18年度)

2007. 11

山梨県埋蔵文化財センター

## 序

本書は、平成18年度に当センターで実施した発掘調査（10件）及び試掘調査（22件）と、遺跡確認踏査（1件）などの概要と、整備事業に伴う調査（2件）や県内中世寺院分布調査、遺跡調査発表会等の普及事業内容を報告するものです。

記録保存のための調査では、10件の遺跡調査を実施しました。整備事業に伴う調査では、「国指定史跡銚子塚古墳附丸山塚古墳」内の施設整備事業や「県指定史跡甲府城跡」の舞鶴城公園整備事業を実施しました。また開発に伴う県内分布調査以外の分布調査では、国補事業の「山梨県中世寺院分布調査」を行いました。

都留バイパス建設事業に伴う発掘調査において、都留市「天正寺遺跡」では、土坑・溝状遺構が多数発見されるとともに、同市の「玉川金山遺跡」では、縄文時代早期の炉穴などの遺構がそれぞれ検出されました。河口2期バイパス建設事業に伴う富士河口湖町「谷抜遺跡」では、縄文時代早期に属する炉穴が確認されるとともに、早期、前期、後期の土器片や平安時代の土坑からは土鍾などの遺物も出土しました。以上の3遺跡は、山梨県の富士北麓東部地域の歴史を知る上で重要な資料となりました。

西関東連絡道路建設事業では、山梨市の「足原田遺跡」において、古墳時代のS字状口縁台付壺・高坏などが発見され、当地域の古代生活の営みが窺えました。また同市の「延命寺遺跡」では、古墳時代前期の台付壺等がまとまって発見されたものの、遺構は確認されませんでしたが、周辺に集落の存在が想定されました。

新山梨環状道路建設事業の中央市「小井川遺跡」では、土堤状遺構の外に平安時代の堅穴住居跡が検出され、カマドの補強材に木材が使用されていたことは、カマド構築方法の新しい発見と思われます。

一般国道52号改築工事に伴う鰐沢町の「鰐沢河岸跡C遺跡（横町地区）」では、3段の石垣や礎石列が検出され、出土した陶磁器から幕末の19世紀前半に構築されたものと考えられます。

国道411号（塙山バイパス）建設事業の甲州市「北田中道跡」は、古墳時代後期の須恵器等の坏が、また「西畠B遺跡」では、遺跡の範囲も狭小であったことから試掘調査に統合して本調査を実施し、縄文土器・黒曜石などが出土しましたが、遺構は確認されませんでした。

「甲府城下町遺跡（新たな学習拠点整備事業）」では、二年次に渡る調査で井戸・溝状遺構・土坑・埋桶などが多数検出され、遺物は中世～近世・近代まで出土し、その種類も調理・信仰・娛樂趣味用具など多岐に渡っています。一方、「甲府城下町遺跡（甲府地方裁判所新営事業）」では、古墳時代の壇などを見つかり、市の中心地にも城下町以前の遺跡が残っていることが判明しました。

「県指定史跡甲府城跡」の整備事業は、石垣の傷みが目立った「丸西側の石垣修繕工事を行い、きれいに整備された石垣をみることができます。

「中世寺院分布調査」は、5ヶ年計画の3年目にあたり、県内の4カ寺を対象に調査が実施され、中世寺院の様相がさまざまな角度から映し出されました。

資料普及事業では、今年度も県内小中学校への「出前支援事業」や中学生を対象とした「職場体験学習」や、埋蔵文化財調査の成果を報告する「遺跡調査発表会」、遺跡での発掘を体験する「発掘体験セミナー」、「埋蔵文化財シンポジウム」、「遺跡見学会」などを開催するとともに、「埋蔵文化財学習活用事業」の一環として普及活動に必要な資料を作成し、工夫をこらした活動を目指してきました。

当センターでは、今まで以上に埋蔵文化財の調査研究、保存と保護に努力し、その貴重な資料を幅広く活用していただき、学校教育や社会教育への普及活動に励んでいきたいと考えていますので、今後ともなお一層ご理解とご支援をお願い申し上げます。

2007年11月

山梨県埋蔵文化財センター

所長 末木 健

# 目 次

## 序文

### 例言・凡例

## 第Ⅰ章 2006年度の事業概要

1 発掘調査等.....	1
2 整理作業.....	1
3 資料普及事業.....	2
4 収蔵資料の貸し出し及び掲載許可一覧.....	4
5 第19回市町村埋蔵文化財専門職員研修会 .....	7
6 遺跡調査発表会.....	7
7 埋文シンポジウム.....	8
8 山梨の遺跡展2007 .....	8
9 埋文やまなし.....	9
10 県指定史跡甲府城跡活用事業 .....	10
11 遺跡データ管理（G I S）.....	13
12 発掘・整理作業標準化 .....	13
13 寄贈・購入図書 .....	13

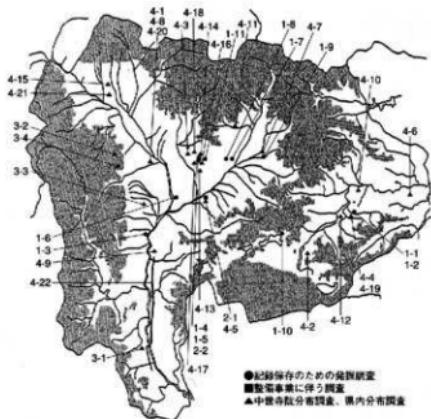
## 第Ⅱ章 各遺跡の発掘調査等概要

1 記録保存のための発掘調査	
1 - 1 天正寺遺跡.....	14
1 - 2 長川金山遺跡.....	16
1 - 3 鮎沢河岸跡（横町地区） .....	18
1 - 4 甲府城下町遺跡（甲府地方裁判所地点） .....	20
1 - 5 甲府城下町遺跡（甲府駅北口地点） .....	22
1 - 6 小井川遺跡.....	24
1 - 7 足原田遺跡.....	26
1 - 8 延命寺遺跡.....	28
1 - 9 北田中遺跡.....	30
1 - 10 谷抜遺跡 .....	32
1 - 11 西畠B遺跡 .....	34
2 整備事業に伴う調査	
2 - 1 国指定史跡銚子塚古墳附丸山塚古墳.....	36
2 - 2 県指定史跡甲府城跡.....	37
3 分布調査	
山梨県内中世寺院分布調査.....	39
4 県内分布調査.....	41

## 第Ⅲ章 県内の概況

1 届出件数と内容.....	55
2 発掘調査.....	55
3 県指定文化財（考古資料）及び県指定史跡.....	55
4 発掘調査の成果と保存整備事業.....	55
5 発掘調査体制.....	56
発掘届出件数・発掘調査件数の推移・2006年度県内発掘調査一覧表 .....	57・58

## 凡 例



## 2007年度 発掘調査等遺跡位置図

## 2006（平成18）年度 職員組織

所	長	末	本	健
次	長	小	澤	稔
總務課長(兼)		小	澤	稔
調查研究課長		坂	本	美夫
資料普及課長		保	坂	康夫

調査研究課 調査第一担当	
副主幹・文化財主事	小林 広和
副主査・文化財主事	猪股 一弘
主任・文化財主事	依田 幸浩
非常勤嘱託	正木 季洋

調査研究課 調査第二担当	
主 壱・文化財主事	山 本 茂 樹
主 任・文化財主事	宮 里 学
主 任・文化財主事	網 倉 邦 生
非 常 勤 嘴 託	酒 井 支 球

調査研究課 調査第三担当	
主査・文化財主事	吉岡 弘樹
主任・文化財主事	鶴田 博
主任・文化財主事	野代 恵子
非常勤嘱託	上原 錠弘

總務課			
主	查	有	泉
副	主	芝	健
主	任	清	二
業	務	水	華
	員	久保川	三

資料叢書及譜		資料第一担当
副主査・文化財主事	田口明子	
主任・文化財主事	奥石逸子	
主任(事)(兼)	中山尚行	
非常勤嘱託	長田隆志	
臨時職員	上野桜	

資料普及課 資料第二担当	
主任・文化財主事	村石 真澄
主任・文化財主事	笠原 みゆき
主任・文化財主事	小林 孝子
非常勤嘱託(12月退職)	芦澤 昌弘
非常勤嘱託(2月採用)	大木 丈夫

# 第Ⅰ章 2006年度の事業概要

## 1 発掘調査等

2006年度の発掘調査等は、以下のとおりである。各遺跡の概要是、第Ⅱ章で述べることとする。

### 1) 記録保存のための発掘調査

番号	調査名他	番号	調査名他
1-1	天正寺遺跡（都留バイパス建設）	1-6	小井川遺跡（新山梨環状道路建設）
1-2	玉川金山遺跡（都留バイパス建設）	1-7	足原田遺跡（西関東連絡道路建設）
1-3	飯沢河岸跡（横町地区）（一般国道52号改築）	1-8	延命寺遺跡（西関東連絡道路建設）
1-4	甲府城下町遺跡（甲府地方裁判所改築）	1-9	北田中遺跡（猿山バイパス建設）
1-5	甲府城下町遺跡（新たな学習拠点整備事業）	1-10	谷抜遺跡（河口2期バイパス建設）
		1-11	西畠B遺跡（西関東連絡道路建設）

### 2) 整備事業に伴う調査

番号	調査名他	番号	調査名他
2-1	国指定史跡 鎌子塚古墳附丸山塚古墳	2-2	県指定史跡 甲府城跡及び関連事業

### 3) 分布調査

番号	調査名他
3-1～4	山梨県中世寺院分布調査

### 4) 県内分布調査

番号	試掘調査・立会調査・遺跡確認踏査	番号	試掘調査・立会調査・遺跡確認踏査
4-1	釜無川流域下水道建設に伴う試掘調査	4-12	单施主先の情報ハイウェイ利用によるネットワーク改修事業に伴う立会調査
4-2	県道山中湖忍野富士吉田橋板道橋建設事業に伴う試掘調査	4-13	南甲府警察署 南甲府駅前統合交番建設事業に伴う立会調査
4-3	甲府警察署 岩坂交番改築事業に伴う試掘調査	4-14	史跡要害山遊歩道崩落による小規模治山事業に伴う立会調査
4-4	都留バイパス建設事業に伴う試掘調査	4-15	長坂郵便局（日野春郵便局移転）建設事業に伴う立会調査
4-5	曾根丘陵公園リニューアル整備事業に伴う試掘・立会調査	4-16	企業局長公舎解体撤去事業に伴う立会調査
4-6	金山川入山沢通常砂防事業に伴う試掘調査	4-17	総合教育センターへ情報ハイウェイ接続事業に伴う立会調査
4-7	国道411号 埼玉バイパス建設に伴う試掘調査	4-18	県営住宅湯村団地建設事業に伴う立会調査
4-8	釜無川流域下水道建設に伴う立会調査	4-19	都留バイパス建設に伴う立会調査
4-9	釜無川流域下水道建設に伴う立会調査	4-20	釜無川流域下水道建設事業に伴う立会調査
4-10	国土交通省大月山張所改築事業に伴う立会調査	4-21	酪農試験場内側清波設置及び簡易舗装事業に伴う立会調査
4-11	芦沢川 火山砂防建設事業に伴う立会調査	4-22	中部横断自動車道建設事業に伴う遺跡確認踏査

## 2 整理作業

2006年度の整理作業は、以下のとおりである。

### 1) 基礎的整理作業

番号	遺跡名
1	天正寺遺跡
2	玉川金山遺跡
3	甲府城下町遺跡（甲府地方裁判所改築）
4	甲府城下町遺跡（新たな学習拠点整備事業）
5	小井川遺跡
6	足原田遺跡
7	延命寺遺跡
8	北田中遺跡
9	谷抜遺跡
10	甲府城跡
11	西畠B遺跡

### 2) 本格的整理作業

番号	遺跡名
1	小井川遺跡
2	山梨県内分布調査報告書
3	甲府城跡
4	平田宮第2遺跡
5	飯沢河岸跡V（横町地区）
6	足原田遺跡II
7	河口2期バイパス開通（濱沢遺跡、夜須遺跡）

### 3) 報告書刊行一覧

報告書番号	報告書名
241集	小井川遺跡
242集	山梨県内分布調査報告書
243集	甲府城跡
244集	平田宮第2遺跡
245集	飯沢河岸跡V
246集	足原田遺跡II

### 3 資料普及事業

今年も引き続き、県内小中学校へ広げし埋蔵文化財に関する学習支援を行う「出前支援事業」、希望する中学生を受け入れて、発掘作業や整理作業を実際に体験する機会を提供する「職場体験」、各種の研修会などで埋蔵文化財の調査成果を報告や解説する「講師派遣」などを実施した。

また、遺跡発掘調査の場を利用して、実際に遺跡発掘を体験する「発掘体験セミナー」や学校の教員を対象として埋蔵文化財の学習を広めるための指導者を養成する「先生のための埋蔵文化財活用講座」を実施した。内容については以下の表に示した。

さらに、文化庁の補助金を得た「埋蔵文化財学習活用事業」では、学校教育で広く活用するために縄文土器78点の補修を行い、これを広報するパンフレットおよびポスターを作成した。

#### 出前支援

5月

湯田小学校 上偶づくり（成形）  
一宮西小学校 火起こしほか

職場体験（センター）敷島中	1名
職場体験（センター）北東中学	1名

6月

六郷小学校 土器づくり（成形）  
千塚小学校 親子火起こし  
桐原中学校 石器作り  
湯田小学校 上偶づくり（焼成）  
身延西小学校 土器づくり（成形）  
六郷小学校 土器づくり（焼成）  
ろう学校 火起こし

11月	職場体験（センター）三珠中	1名
11月	職場体験（甲府城）塙山中学	5名
	職場体験（センター）笛南中	8名
	小計 延べ人数	18名

7月

身延西小学校 土器づくり（焼成）  
8月  
牧丘第二小学校 土器づくり（成形）  
牧丘第二小学校 土器づくり（焼成）

10月

畠倉小学校 土器づくり（成形）  
田富小学校 土器づくり（成形）  
11月  
畠倉小学校 土器づくり（焼成）  
大月東小学校 火起こし  
島田小学校 土器づくり（成形）  
田富小学校 土器づくり（焼成）

12月

島山小学校 土器づくり（焼成）  
小計 延べ人数 812名

#### 講師派遣

4月

甲府城案内仕り隊養成講座

30名

5月

甲府城案内仕り隊養成講座

30名

6月

山梨ことぶき勤学院南巨摩学園

30名

塩山高校講座「地域を知る」

28名

山梨ことぶき勤学院東山梨学園

40名

山梨ことぶき勤学院南都留学園

40名

7月

甲斐市竜王北部公民館「歴史講座講演」

25名

甲斐市歴史講座

25名

山梨ことぶき勤学院西八代学園

32名

城南中学校「縄文土器のはなし」

22名

山梨ことぶき勤学院甲府学園

55名

甲府城の歴史と研究

20名

歴史と文化を学ぶ会「武田氏の城と甲府城」

75名

北杜市旧石器時代

40名

武田の里学び塾

30名

9月

甲府城下町を語る会

70名

10月

笛吹市民講座「甲府城の歴史」

30名

笛吹市民講座「甲府城見学」

30名

#### 職場体験

7月

職場体験（鰐沢河岸跡）下山中  
職場体験（センター）巨摩中

笛吹市民講座「中世の石仏」	12名	湯田小学校「映像ライブラリー」
やまなし再発見講座「甲斐の古道1」	80名	六郷小学校「映像ライブラリー」
笛吹市民講座「中世の石仏」	12名	一宮西小学校「縄文土器・火起こし道具」
やまなし再発見講座「甲斐の古道3」	80名	田富小学校「映像ライブラリー」
11月		千塚小学校「映像ライブラリー」
滋賀県立安土城博物館講座	150名	6月
笛吹市民講座「舟運の考古学」	9名	六郷小学校「縄文土器」
笛吹市民講座「駿遊堂遺跡の旧石器物語」	22名	千塚小学校「縄文土器・石器・火起こし道具」
下山の教育を語る会「下山の歴史と下山大工」	30名	桐原中学校「石器」
1月		湯田小学校「土偶」
山梨ことぶき勘探学院東八代学園	27名	畠倉小学校「映像ライブラリー」
八代町文化協会「甲斐の古墳と岡銚子塚古墳」	27名	芦安中学校「縄文土器・映像ライブラリー」
甲府市新紹屋地区郷土研究会「甲府城の歴史」	80名	身延西小学校「縄文土器・映像ライブラリー」
笛吹市民講座「舟運の歴史講座」	32名	ろう学校「火起こし道具・映像ライブラリー」
小計 延べ人数 1250名		中央高校「映像ライブラリー」
<b>発掘体験セミナーほかイベント</b>		
6月		7月
匠の技（火起こし体験）	200名	牧丘第二小学校「映像ライブラリー」
7月		8月
第1回発掘体験セミナー甲府城下町遺跡	30名	牧丘第二小学校「縄文土器」
第2回発掘体験セミナー甲府城下町遺跡	22名	甲府東高校「映像ライブラリー」
8月		勝沼小学校「映像ライブラリー」
先生のための埋蔵文化財活用講座（1）	11名	敷島南小学校「映像ライブラリー」
先生のための埋蔵文化財活用講座（2）	10名	下和田小学校「映像ライブラリー」
第3回発掘体験セミナー甲府城下町遺跡	26名	吉田西小学校「映像ライブラリー」
第4回発掘体験セミナー甲府城下町遺跡	22名	竜王西小学校「映像ライブラリー」
9月		忍野中学校「映像ライブラリー」
第5回発掘体験セミナー女夫石遺跡（韭崎市）	36名	下部中学校「映像ライブラリー」
第6回発掘体験セミナー女夫石遺跡（韭崎市）	29名	泉中学校「映像ライブラリー」
10月		明見中学校「映像ライブラリー」
2006年度上半期遺跡調査発表会	90名	9月
第7回発掘体験セミナー女夫石遺跡（韭崎市）	13名	駿台中学校「縄文土器」
第8回発掘体験セミナー女夫石遺跡（韭崎市）	13名	10月
11月		島田小学校「映像ライブラリー」
国指定史跡甲斐銚子塚古墳を知ろう	100名	三珠中学校「映像ライブラリー」
第9回発掘体験セミナー甲府城詰石体験	27名	三珠中学校「縄文土器・火起こし道具」
砂防学習公園勝沼堰堤公開見学会	30名	畠倉小学校「縄文土器・火起こし道具」
2月		山富小学校「縄文土器」
埋蔵文化財シンポジウム「堤防今昔」	84名	駿台中学校「縄文土器」
小計 延べ人数 743名		11月
<b>貸出</b>		
5月		大月東小学校「火起こし道具」
一宮西小学校「映像ライブラリー」		島田小学校「縄文土器」
		小計 36件

**統計124件 2,823名**

#### 4 収蔵資料の貸し出し及び掲載許可一覧

收藏資料貸出許可一覽

**写真資料の貸出並びに掲載許可一覧**

番号	申請日	申請者	利 用 目 的	申譲物件名
1	4月11日	株式会社 アルク出版企画	「韓学3分冊ビジュアル図解シリーズ」に掲載のため	駿道室遺跡 土偶集合写真
2	4月12日	株式会社 ミップス	テレビ番組「民族の歴史」内で放送のため	安達寺遺跡 純文土器
3	4月14日	山梨県立博物館	「山梨県立博物館ガイドブック」に掲載のため	官房中村遺跡 銅代護岸
4	4月19日	株式会社 増山閣	「丁寧参考古学」第95号口絵に掲載のため	甲ノ原遺跡 漆彩文土器4点
5	5月12日	山梨日日新聞社出版	山梨県土研究会編「山梨の歴史景観」に掲載のため	鷹沢河岸跡 鋼鏡台跡
6	5月14日	多田みのり	旅行作家の多田みのり「旅作家」102号に掲載のため	考古博物館 展示室内2点
7	5月17日	株式会社 増山閣	石狩海信著「古墳時代を考える」に掲載のため	桃子塚古墳 木製品
8	5月20日	森川明美	「勝洋ホリエ」31号「山梨県・甲府城」町道路出土の唐鏡をめぐってー江戸時代の唐鏡とその所有者に関する考察ーに掲載のため	甲府城下町遺跡 金183枚上坑出土品
9	6月9日	株式会社 新書館	小林達雄編「考古学ハンドブック」に掲載のため	金牛遺跡 十銅耳振り
10	6月11日	相模原市立博物館	秋季特展「相模川・桂川流域の縄文時代 川に宿された先人の暮らしー」展示回数、ポスター、チラシ等各別展回連印刷物への掲載のため	中谷遺跡 造像3点 庄原下原遺跡 全曲2点 造像3点 造物2点 渡谷場遺跡 全曲1点 造像1点 大月遺跡 全曲1点 造物4点 造物2点
11	6月12日	明治大学博物館	特別展「掘り出されたく子どもの歴史 石器時代から戸戸時代まで」に係る広報物に掲載のため	周邊跡 容器形土偶 宮の前遺跡 造像2点 造物2点
12	6月16日	茨城県立歴史館	特別展「誕生のムラ 宝令の村ーいにしえ人のくらしと文化ー」開連印刷物に掲載のため	安達寺遺跡 古孔傳付土器 一の沢遺跡 瓦文土器2点
13	6月21日	株式会社 新書館	小林達雄編「考古学ハンドブック」に掲載のため	別所丘遺跡 十銅
14	6月21日	北杜市教育委員会	北杜市長坂出土資料第15回企画展「北杜の旧石器時代」開連印刷物への掲載のため	相川出土 ナウマンゾウ化石 遺跡近景 丘の公園墓地遺跡 陶物出土状況3点 遺物風景3点 石器4点 立石遺跡 遺跡近景 天神堂遺跡 陶物出土状況 八ヶ岳遺跡 離野出土状況 見川出土 ナウマンゾウ化石 化石出土状況6点 南豊岡近景3点 横針前久保遺跡 石器4点 南豊岡空港 イラスト9点 イラスト風写真
15	7月5日	岐阜教育事務所 大久保栄樹	山梨県総合教育センター Web教材「新やまかいの四季」に掲載のため	相川出土 ナウマンゾウ化石
16	7月30日	青森県立美術館	青森県立美術館旗旗記念展「縄文と現代ー2つの時代をつなぐ『かたち』と『こころ』」に展示するため	駿林遺跡 純文土器 一の沢遺跡 純文土器 天沢遺跡 純文土器 上野原遺跡 純文土器 酒呑場遺跡 純文土器・土偶 一の沢遺跡 十銅 杜野遺跡 土偶
17	7月30日	滋賀県立安土城考古博物館	平成18年度秋季特別展「信長の城、秀吉の城ー織田系城系の変遷と展開」関連印刷物に掲載のため	甲府城跡 瓦17点 軒宝
18	9月7日	南アルプス市教育委員会	メールマガジン「南アルプス市ふるさとメール」への掲載・配信のため	向河原遺跡 造像 大庭東丹保遺跡 造像

			油田遺跡	整件
19	9月8日	奈良博物館	谷別里「土偶の差」関連印刷物への掲載のため	一の沢遺跡 純文土器
				原町農業高校遺跡 純文土器2点
				稻谷塙遺跡 純文土器5点
				水谷塙遺跡 純文土器
				芋ヶ原遺跡 純文土器4点
20	9月19日	笛吹市教育委員会	平成18年度笛吹市小学校社会科教科書への掲載のため	一の沢遺跡 有孔器付土器
				土器
21	9月29日	長野県立歴史館	長野県立歴史館新設展示パネルへの掲載のため	御物御屋遺跡 土偶と骨付土器
22	9月29日	甲斐丌金村・湯之奥念山博物館	「甲斐丌金村・湯之奥念山博物館展示巡回」に掲載のため	金山金山遺跡 遺物2点
				遺物2点
23	10月12日	山梨日本新聞社メディア企画局出版部	「古代山梨の先と影」に掲載のため	甲府城下町遺跡 調査地點と地名及び町名
24	11月17日	株式会社 ユーキャン	竹森浩一が語る日本の古代』ビデオ・DVD12巻セット』の広報に使用するため	金牛遺跡 配石量備と後元住居
25	1月8日	山梨郷土研究会	山梨郷土研究会機関誌「甲斐」112号に掲載のため	安道寺遺跡 新築毎付土器
26	1月16日	株式会社 溪島酒店	「新編日本史」に掲載のため	甲ヶ原遺跡 石皿と磨石
27	1月18日	株式会社 山川出版社	「山梨県の歴史歩数」に掲載のため	金牛遺跡 兔園状況
				復元状況
28	1月23日	株式会社 碧水社	宇賀研究社「天守のすべて」に掲載のため	甲府城跡 金箔朱漆手舟瓦
29	2月21日	株式会社 嶺山閣	「季刊考古学」第99号」口論に掲載のため	驥込地遺跡 遺物出土上状況
				海道前川遺跡 土器と火作
				大月遺跡 遺物出土上状況
				金生遺跡 遺物出土上状況
30	2月28日	石和温泉旅館協同組合	「甲斐国1000年の部信吹」パンフレットに掲載のため	花鳥山遺跡 純文土器
				一の沢遺跡 純文土器
				猿塚古墳 土偶
				龜甲塚古墳 金鏡
				中丸遺跡 土偶（レプリカ）
				駒込堂遺跡 純文土器
				石器
				ハマグリ
				寺本高寺 三重塔復元資料
				心鏡
				瓦
				甲斐國分寺 基壇
				上器
				大原遺跡 土器
				大坪遺跡 土器
				二光 大珠
				考古博物館 貯小室
31	3月1日	滋賀県立安土城考古博物館	滋賀県立安土城考古博物館蔵「シンボジウム『信長の城・秀吉の城』」に掲載のため	甲府城跡 瓦5点
32	3月8日	南アルプス市教育委員会	連絡専用紙「御動尻川原状地末端の道路」へ掲載のため	甲府城跡 調査状況8点
				十五所通跡 全景
				方形川瀬幕 川十瀬物
				村前東A遺跡 全景
				出土遺物
				新開落丁遺跡 全景
				調査風景
				遺物出土上状況
				出土遺物2点
33	3月9日	山梨県史編纂室	「山梨県史」通史編2〔中世〕へ掲載のため	石橋北塙敷遺跡 土器
34	3月15日	南アルプス市教育委員会	埋蔵文化財告白団子及びウォーキングマップへ掲載のため	色番下足跡 道標2点
				新荒川虎防跡群 道標2点
				石橋北塙敷遺跡 道標2点
				土器
				二本橋遺跡 遺物出土状況2点
				兜塚余具
				木棺墨書き

## 5 第19回市町村埋蔵文化財専門職員研修会

本研修会は、山梨県内の市町村埋蔵文化財担当者を対象に、最新の考古学研究の方法や技術、埋蔵文化財行政が抱える問題などを考え、埋蔵文化財に従事する専門職員の資質向上と技術習得を目的として研修を行っているものであり、今回で19回を数える。2006年度については「柱穴と上屋構造との関係－柱穴の調査方法ととらえ方」と題して2007年2月9日午後1時30分より4時まで、風土記の丘研修センターを会場に東北芸術工科大学大学院教授宮本長二郎先生を講師にお招きし、ご講演いただいた。内容は堅穴住居跡や掘立柱建物跡などの発掘調査写真などを交え、発掘調査ではわからない上屋構造を堅穴式住居跡や掘立柱建物跡などの柱穴の配置や規模から復元する方法とともに、東南アジアなどにおける掘立柱建物の事例のスライドを交えた紹介など興味深いお話を伺うことができた。

なお、参加者は県内市町村職員などを含む35名であった。



## 6 遺跡調査発表会

遺跡調査発表会は、県内で当該年度に発掘調査された遺跡について、その調査内容や成果を公表する催しとして上半期、下半期の年2回開催している。開催は山梨県考古学協会と共に実施し、出土遺物や写真パネルのミニ展示も併設している。また、各調査担当者からの説明に加え、時代・時期・地域などの特性に応じた研究者からのコメントを追加し、参加者の興味を深めている。本年度の発表内容は以下のとおりである。

○2006年度上半期遺跡調査発表会（参加人数約90名）

開催日時 2006年10月7日（土）午後1時30分から4時15分

開催会場 風土記の丘研修センター 講堂



発表1 身延町 お宮横遺跡（発表者 身延町教育委員会 今福利恵）

縄文時代前・中期の堅穴住居跡や中期の落とし穴などの土坑が発見された。

発表2 甲府市 万寿森古墳（発表者 甲府市教育委員会 平塚洋一）

六世紀中頃に築造された円墳で、周溝の範囲が確認された。

発表3 南アルプス市 東出口遺跡（発表者 帝京大学山梨文化財研究所 平野修）

古墳・奈良～平安時代の堅穴建物跡34軒の他に中世末の土器焼成遺構等が発見された。

発表4 山梨市 柚口金桜神社奥社地遺跡（発表者 帝京大学山梨文化財研究所 柳原功一）

平安～中世の建物跡・礎石建物群などを発見。甲州市勝沼町柏尾山経塚との関連が注目される。

発表5 甲府市 甲府城下町遺跡（発表者 山梨県埋蔵文化財センター 吉岡弘樹）

戦国期の墓坑や近世の武家屋敷に伴う井戸、区画溝などが発見された。

○2006年度下半期遺跡調査発表会（参加人数約100名）

開催日時 2007年3月17日（土）午後1時から4時30分

開催会場 帝京大学山梨文化財研究所 大ホール

報告 平成18年度の県内埋蔵文化財の調査と保護（発表者 山梨県教育庁学術文化財課 保坂和博）

発表1 蕨崎市 女夫石遺跡（発表者 蕨崎市教育委員会 関間俊明）

縄文時代中期の堅穴住居跡18軒と、同時期の遺物廃棄帯が居住域の斜面上方に発見された。

- 発表2 甲州市 天神堂遺跡（発表者 帝京大学山梨文化財研究所 楠原功一）  
縄文時代中期から平安時代の集落跡で、縄文時代の土坑から鶏冠把手土器が出土した。
- 発表3 甲府市 甲府城下町遺跡（発表者 山梨県埋蔵文化財センター 野代恵子）  
古墳時代初頭・後期の土器や須恵器が4箇所に集中して出土した。
- 発表4 南アルプス市 野牛島・西ノ久保遺跡（発表者 南アルプス市教育委員会 斎藤秀樹）  
古墳時代前期・平安時代の集落跡を中心に、中世の墓からは県内初の青銅鏡が発見された。
- 発表5 茂崎市 苗敷山山頂遺跡奥宮西地点（発表者 山梨県埋蔵文化財センター 石神孝子）  
山頂の南側テラスで10世紀代の祭祀跡が発見された。
- 発表6 甲州市 山梨県指定史跡「武田勝頼の墓」保存修理事業について（発表者 甲州市教育委員会 飯島泉）  
武田勝頼・信勝、北条夫人の墓の基壇から供養のために埋納した経石が多量に出土した。

## 7 埋文シンポジウム

埋蔵文化財シンポジウムは、遺跡発掘調査から得られた調査成果を、関連分野の専門家を交えた多角的な視点から、県民一般の方にわかりやすく解説する企画である。当埋蔵文化財センターの関連する事業である「遺跡調査発表会」や「山梨の遺跡展」は、最新の調査成果を速報するのに対して、この埋蔵文化財シンポジウムは発掘資料をじっくりと調査研究した成果を発信することに位置づけられるものである。

この平成18年度は考古博物館と共同開催して、「堤防今昔—治水技術の先進地やまなし」と題し、山梨が平安時代から現在まで、治水技術の先進地であり続けてきたことに着目した。そこで、古来より現代までの堤防に着目し、それぞれの時代で堤防が果たした役割を通して、山梨の人々がいかに川と付き合ってきたのかを明らかにすることをめざしてシンポジウムを企画した。

今年度は、パネル展を併せて企画して、シンポジウム当日は会場にパネルを設置し、シンポジウム終了後は考古博物館エントランスホールに展示し、「山梨遺跡展2007」開催中はコーナーを設けて展示した。

シンポジウムの内容は以下のとおりである。

日 時 平成19年2月24日（土）

会 場 甲府市社会教育センター 4階 大ホール

日 程 13:00~13:05 開会挨拶&趣旨説明

13:10~13:45 「全国の堤防遺跡と山梨の治水技術】



帝京大学山梨文化財研究所 畑大介

13:45~14:20 「山梨県の堤防遺跡の分布」—分布調査の成果から— 埋蔵文化財センター 保坂康夫  
14:20~14:55 「発掘調査でわかった堤防」—釜無川・御勘使川を中心に—

南アルプス市教育委員会 田中大輔

14:55~15:10 休憩

15:10~16:10 「富士川における歴史的治水施設の水理学的評価】

山梨大学大学院医学工学総合研究部 砂田憲吾

16:15~16:45 ミニシンポジウムコーディネーター

埋蔵文化財センター 末木 健

## 8 山梨の遺跡展2007

「山梨の遺跡展2007」は、2006年度中に県内各地で行われた発掘調査の成果、資料普及活動の様子などを広く

一般に公開することと、いち早く県民に紹介することを目的として、平成19年3月17日～4月8日まで、県立考古博物館の多目的室で開催した。入場は無料。

展示の内容は、(1)当センターによって発掘された遺跡の展示、(2)市町村によって発掘された遺跡の展示、(3)当センターの資料普及活動などの展示(4)新聞報道展示の4種類である。(1)では、富士河口湖町の谷抜遺跡で、縄文時代早期・前期・後期の土器や石器、山梨市の足原田遺跡で、古墳時代のS字状口縁台付壺や高杯、中央市の小井川遺跡で平安～中世時代の土師器壺・皿・壺、鷹沢町の鷹沢河岸跡横町地区で近世の陶磁器碗、泥めんこ、都留市の天正寺遺跡で、縄文～弥生時代の土器片、玉川金山遺跡では、縄文時代の土器片、打製石斧、石鎌、山梨市の延命寺遺跡で、古墳時代前期の台付壺、甲州市の北田中遺跡で、古墳時代の土師器や須恵器、西畠B遺跡で、縄文土器や黒曜石、甲府市の甲府城下町遺跡（北口）で、中世から近世・近代までの灯明皿、徳利、六道鏡、甲府城下町遺跡（裁判所）で、古墳時代後期の須恵器の大甕などを展示した。また、中世寺院分布調査では、韭崎市の苗敷山山頂遺跡から出土した土器片などを展示した。写真パネルのみの展示では、甲府城跡の二の丸西側の石垣修繕工事の様子や詳しい内容を紹介した。

(2)では、甲府市教育委員会の発掘により、周溝などの発見から古墳築造が6世紀第2四半期頃と推定できた万寿森古墳、縄文時代の遺物廃棄帯等から、巨石を中心に石棒・土偶などの遺物が多数出土した韭崎市教育委員会の女夫石遺跡、完形の波状口縁深鉢と鶴冠把手付土器が発見された甲州市教育委員会・山梨文化財研究所の天神堂遺跡、テラス群と石段、石積、礫石建物跡群の検出と礫石配置が明らかになった山梨市教育委員会・山梨文化財研究所の袖口金桜神社奥社地遺跡、平安～鎌倉時代の水田・集落・田畠跡が確認された中央市教育委員会の平田宮第2遺跡から出土遺物や写真を借用して展示した。

(3)では、土器づくり等の体験学習を支援する出前支援事業、中学生の職場体験学習、遺跡発掘体験セミナーなどの様子を写真・新聞記事等で紹介した。また、埋蔵文化財シンポジウム（テーマ「堤防今昔」）で使用したパネルも展示した。(4)では、2006年度中に県内各地で発掘され、新聞報道された記事を集め、紹介した。

これらの展示を通して、県民の皆様に埋蔵文化財への理解、郷土山梨への歴史認識を深めていただくことができたと考えている。

## 9 埋文やまなし

### 第24号

本号では所長新任挨拶のほか、2006年7月25日と8月10日に「甲府城下町遺跡」で開催された発掘体験セミナーを巻頭で紹介した。さらに「国指定史跡銚子塚古墳の史跡整備事業」の状況、最新の考古学情報として「足原田（いしはらだ）遺跡」出土のS字状口縁台付壺の復元の様子と「延命寺遺跡」の旧河道から出土した台付壺を紹介した。

### 第25号

最新の発掘調査速報を特集として、木製の補強材が使用されたカマドが発見された「小井川遺跡」を巻頭で取り上げ、そのほか縄文時代早期の「谷抜（かまぬけ）遺跡」、狹い範囲の調査ではあったが大量の古墳時代の土器が出土した「北田中遺跡」、14世紀のかわらけが出土した「西畠B遺跡」を紹介した。また、埋文シンポ「堤防今昔」開催告知、国指定史跡銚子塚古墳と勝沼堰堤の見学会の様子、県指定史跡甲府城跡稻荷櫓常設展示オープンの告知を掲載した。

### 第26号



平成16年度から5ヶ年に計画で実施している「山梨県内中世寺院分布調査」の中間報告をやまなしの中世寺院人特集号と銘打ち、今まで発掘調査した円楽寺、古長禅寺など7寺院の紹介を掲載した。また、市町村担当者研修会の開催報告や2007年度下期遺跡調査発表会の告知も掲載した。

## 10 県指定史跡甲府城跡活用事業

### 関連事業

4月7日から16日までの10日間、第3回「甲府城発掘展—甲府勤番上の生活と文化—」を稻荷櫓内で開催した。この事業は、平成16年度から5ヶ年計画で実施されているもので、毎回各テーマに沿って甲府城に係わる歴史を伝える目的の展示会で、今回は約3600名の方が訪れた。また、開催初日に県立博物館との連携し飯田文彌氏を講師に招き「甲府勤番と甲府城下」と題する講演会を開催した。

7月25日には、埋蔵文化財センターが実施する発掘体験セミナー事業として、甲府城下町遺跡の発掘調査にあわせ親子で甲府城跡内を見学した。11月18日には、同事業の一つとして「甲府城詰石体験—石工さんに学ぼう—」を開催した。これは、三の丸西面石垣の修繕工事（詰石補修工事）に合わせ、県土木部中北建設事務所および工事施工者や技術者の協力を得て実施したものである。当日は、県内の親子が多く参加、工事に従事する本県の石積技術者が伝統的石積技術の技を伝授した。参加者は、四苦八苦しながら石垣補修に取り組み、最後は墨書きで参加記念を記した詰石を石垣にはめ、職人から出来映え評価を得ていた。また当日は、県土木部職員による実験を織り交ぜて実施された石垣構造についての青空教室はとても分かり易く、児童のみならず参加者から大きな賞賛を得た。

さらに、11月9日には石積技術者から要望もあり、技術者の地元である甲州市塙山中学校の児童が職場体験として石垣修繕工事に参加した。児童は道具の取扱いや石割技術を学び施工に助んだが、あわせて文化財を守り残すことの重要性を肌で感じる一日となったようである。

### 稻荷櫓展示のリニューアル

これまで甲府城跡内（舞鶴公園内）には、甲府城の歴史を学ぶ常設展示施設がなく、展示の機会も上記のような年一度の「甲府城発掘展」に限られ、多くの是正の声を頂いていた。また、稻荷櫓は県都甲府でもっとも利便性のある展示施設で、県内外から年間2万人以上の利用者もあることから、甲府城と城下の歴史や文化を発掘調査出土品や最新の研究成果を通じて広く理解してもらう目的で、11月28日に常設展示としてオープンした。オープニング当初は、特別展として甲府城跡出土品の特徴である築城期（織豊期）の金箔瓦を展示し、多くの入場者を得た。

### 講演・見学会

4月23日には、県観光部観光振興課の依頼を受け甲府城ボランティアの案内仕隊の新規登録者を対象とした講習会を実施した。7月4日には、ことぶき勤学院関係者から、城内を探索しその歴史を詳しく学ぶ目的で依頼を受け、城内を丹念に歩いた。9月10日には、市民団体より依頼を受け甲府市遊亀公民館を会場に、甲府勤番とその生活をテーマに講演をおこなった。10月には笛吹市からの依頼を受け、スコレー大学の一環として全2回で甲府城の歴史を解説した。初回の10月3日には座学で甲府城の歴史を、翌週の10月10日には城内で石垣を中心に実地学習をおこなった。10月11日には、甲府城近隣の有志から依頼を受け甲府城跡見学会を開催した。参加者には小学生を連れた親子連れも多く参加し、甲府城築城に係わる当時の石積技術や今も城内に残る建物の痕跡に特に関心を示してもらえた。11月3日には、滋賀県立安土城考古博物館の依頼を受け、同館が実施する秋季特別展「信長の城・秀吉の城」にあわせた博物館講座で講演をした。講演は、金箔瓦の出土と歴史的意味・家紋瓦の出土と築城者、近年の野面積み石垣の調査成果にテーマに、甲府城跡が織豊系城郭であることを解説した。11月11日は、本県南巨摩地区にある下山教親会から依頼を受け、下山大工と甲府城跡の関わりや当該地域の伝統技術の重要性をあわせ解説し、終了後には有志の方々と身延町周辺の石積技術関連の痕跡を現地調査した。甲府城跡関連調査

本年度は、次のような県内に残る甲府城関連資料の調査を実施した。

5月1日は中央市田富町の極楽寺山門が、甲府城の門を移築したとの情報を得て現地調査をおこなった。調査の結果、明治期後半に城内に建築された甲府中学校に関わる門である可能性が高く、建築様式や部材は江戸期後半の様相を持ちつつも改変痕跡が多く、現段階では甲府城の門とは断言できない。今後は、現在は所在不明となっているが移築に係わる記録など追加調査が必要であろう。6月29日は甲府城間連古文書の調査を南アルプス市立桃源郷美術館でおこなったが、これまで把握されている絵図など確認に止まった。9月以降には県内外在住の方より甲府勤番士に関する情報が寄せられ、史料提供や実地調査をおこなった。その成果は資料所有者の同意を得て今後機会を得て報告したい。10月17日には、明治期に城内に建設された甲府中学校の記録写真を調査するため、後身である県立甲府第一高等学校（以下、甲府一高）同窓会事務局の協力を得て、同会所蔵資料の調査を実施した。その結果、明治期の甲府城内の様子が撮影されている状態の良い古写真を多く確認できた。12月7日には、甲府城北東部愛宕山周辺の石切丁場に関する情報提供を甲府城跡保存活用等調査検討委員より受け現地踏査を実施した。その結果、甲府城石材供給地である明確な根拠を得ることはできなかつたが、安山岩露頭には各種の矢穴痕や膨大な量の石割時の剥片が確認でき、甲府周辺の石割技術に関する資料の充実をみた。

また、11月には高根町郷土研究会の方より、城内に所在するいわゆる「標高石柱」について指摘が寄せられた。標高石柱は、本県の教育活動や八ヶ岳を通じて青少年育成に尽力した坂本増二郎氏（北杜市高根町出身 1876生）が南伊摩郡南部町万沢から八ヶ岳の権現岳まで海拔100m毎に計35本を建立したものである。その目的は、昭和15年（1940）が皇紀2600年で教育勅諦発布50周年という節目であり、当時の国家的意識抑揚の各種事業に協賛する形で実施したものである。しかし、その後の市街地開発のなかで無造作に撤去や移転させられた運命を持ち、現在は清水疊太夫氏を会長とする高根町郷土研究会所属の方々が驚くほど筋力的に調査を進め、25基以上の所在確認に成功している。甲府城との関わりとして、当初は甲府駅周辺（楽屋曲輪等）に設置されたようであるが、その後の甲府中学校移転や戦中戦後の市街地土地利用変遷のなかで流転し、いつからか不明であるが甲府城跡内に配置されたようである。このような経過を知り、また石柱銘に甲府中学があることから甲府一高事務局および同窓会事務局と協議のうえ移設することとなり、関係者立会のもと11月24日に同校前庭に運搬をした。

#### 甲府城跡保存活用等調査検討委員会

平成17年度にされた甲府城跡保存活用等調査検討委員会（以下、委員会）の実施状況は以下のとおりである。なお、本文では当センターが主に担当した鰐瓦および県外資料調査を抽出して記載する。

6月23日および2月20日は委員会を開催し、本年度事業として文献調査成果等や城内発掘調査出土品を基にした鰐瓦復元事業計画について協議・検討をおこなった。

文献調査は、7月19～20日に愛知県西尾市立図書館岩瀬文庫の史料調査を実施し甲府城他本県の諸城郭絵図の確認をした。愛知県名古屋市立博物館・逢左文庫（徳川美術館）では江戸初期の甲府城主徳川義直の藩政史料を調査し、同じく絵図等の調査をおこない、2月15日には京都市内で間連絵図の調査を実施した。

鰐瓦復元については、9月6日、2月1日、同13日に委託業者との作業・検討会を実施したほか、1月12日には委員会委員と里古整理室において出土品の検討会を開催し、2月14～15日には奈良県宇陀市教育委員会、京都市埋蔵文化財研究所、京都府埋蔵文化財調査研究センターの協力を得て宇陀松山城、淀城、聚楽第、二条城等に関係する発掘調査出土の鰐瓦資料の調査を実施し、3月16日は松本城管理事務所、3月29日は姫路城管理事務所ならびに兵庫県立歴史博物館の協力を得て、各出土鰐瓦の現地調査を実施した。

なお、9月8日には本年度実施の石垣修繕工事現場を委員会委員が視察し、作業について指導助言を得た。

#### その他

本年度の甲府城関連事業として、8月30日に神奈川県小田原市教育委員会からの依頼を受け、史跡小田原城調査・整備委員会石垣専門部会に平成15年度より参加している。本年度も引き続き現地に赴きながら、石垣改修方法について検討をしてきた。

9月28日には山梨県立考古博物館とともに、滋賀県立安土城考古博物館秋季特別展「信長の城・秀吉の城」への甲府城跡出土金箔瓦等の貸出業務を実施。1月18～20日には第4回全国城跡等石垣整備調査研究会（主催：文化庁・石川県・石川県教育委員会）に出席し「甲府城の石垣修理－山梨県指定史跡甲府城跡の石垣の維持・管

理工事の試みー」と題した発表をおこなった。これは平成16年に姫路市で開催された第1回の同研究会における発表「甲府城跡稲荷櫓石垣改修工事の事例」に続く2回目のものである。3月3日には伊那石研究会の依頼を受け、石積技術者とともに石割技術および城内石垣の検討、石切丁場視察をおこない情報の交換を得た。



塙山中学校生徒の職場体験



詰石体験「石工さんに学ぼう」



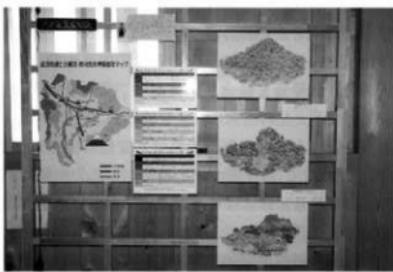
甲府城稲荷櫓常設展オープニング式典



甲府城内見学会



委員会委員による出土瓦検討会



甲府城稲荷櫓常設展示

## 11 遺跡データ管理（G I S）

今年度、新たに遺跡の発見や遺跡範囲の変更などがあったもので、遺跡情報管理システム（Geographic Information System）に登録した件数は8件であった。その内訳は、遺跡の発見（富士河口湖町：谷抜遺跡、身延町：三堂平遺跡、北杜市白州町：竹字3遺跡、甲州市：常説寺跡）4件と、遺跡の範囲変更（北杜市大泉町：清水遺跡、北杜市明野町：浅尾原VI遺跡、上野原市：大間々遺跡、南アルプス市：若宮遺跡）4件である。

## 12 発掘・整理作業標準化

昨年度に引き続き、各担当による作業標準化のマニュアル作成を行った。項目については、「古墳などの発掘調査方法」、「集落の発掘」、「試掘確認調査」、「整理作業手法」、「報告書の作成」である。今年度のマニュアル作成は、骨子を基に詳しく項目立てを行い更に検討を実施した。今後は、用語の統一などを含めた検討等を行う予定である。

## 13 寄贈・購入図書

毎年約3,000～4,000冊が寄贈・購入されている。寄贈図書の内容は、全国の都道府県・市町村教育委員会から送られてくる発掘調査報告書・年報・研究紀要・博物館・資料館などの企画展・常設展の図録などである。そのほかに、業務に関する考古学・歴史学の専門書・学術雑誌を購入している。

平成18年度（2006年度）は、約2500冊の図書を登録した。また、業務に関する考古学・歴史学の専門書・学術雑誌等は、約188冊購入した。総登録数約71,000冊と大塚文庫約11,000冊と合わせ、約82,000冊が現在、収蔵されている。

登録された図書のデータは、図書データベース（マイクロソフト社データベースアクセス）で管理している。そして、図書データベースで蔵書の検索もできるようにしている。

年々増え続ける図書を収蔵するスペースが不足し、書架の設置場所も限界にあるため、新たな収納スペースの確保が大きな課題である。また、閲覧スペースを含めた新たな保管場所の整備等も強く望まれる。

当センターに複数冊送ってきたものについて、県立博物館へ保管移管を進め、博物館での活用も期待している。

年度別登録図書数

年 度	新規登録図書	総登録数
平成9年度（1997）以前	—	37,252
平成10（1998）	3,842	41,009
平成11（1999）	4,252	45,351
平成12（2000）	3,515	48,886
平成13（2001）	3,314	52,180
平成14（2002）	3,395	55,575
平成15（2003）	4,141	59,716
平成16（2004）	1,256	64,790
平成17（2005）	4,453	69,243
平成18（2006）	2,505	71,745

\*大塚文庫を除く

\*平成16年度よりアクセスデータ数（それ以前は台帳での数）

## 第Ⅱ章 各遺跡の発掘調査等概要

### 1 記録保存のための発掘調査

てんしょじいせき

#### 1-1 天正寺遺跡

所在地 都留市井倉字赤沢平地内

事業名 都留バイパス建設事業

調査期間 2006年6月21日～7月28日

調査面積 615m<sup>2</sup>

調査担当 綱倉邦生・酒井玄暁



天王寺遺跡 位置図

天正寺遺跡は、朝日川右岸、標高455～464mの山林内に位置し

ている。周知の包蔵地としては、北西側に縄文・弥生・平安時代の遺物が出土している生出山山頂遺跡、南東側に中世の城館跡である与縄館跡、南西側に縄文・弥生・奈良・中世・近世の遺構・遺物が出土した玉川金山遺跡などがある。

都留バイパスは都留市十日市場から都留市田野倉に至る2車線バイパスとして計画されており、今回調査が実施された井倉字赤沢平地内はその第2トンネル地点付近に位置する。施工予定範囲の付近には1615年に創建された天正寺があることから、2003年度に試掘調査を行ったところ、縄文時代の遺構・遺物が確認された。2004年度には包蔵地の範囲確認のため、試掘調査を実施した。この結果、調査対象範囲から複数のプランが検出され縄文時代の遺物が出土したため、2005年度に本調査を実施したところ、堅穴住居跡1軒・土坑351基・溝状遺構61条・焼土集中4基・沢跡2が検出された。遺構・遺物の時代は、縄文・弥生・古代～近世である。

今年度の調査区は昨年度調査した1区と2区の間に位置する。調査区を4区と呼称し、遺構面の上まで重機で掘削を行った。この後、人力による遺構確認、遺構に係わる記録保存措置を行って、完掘した。

4区の遺構面は明茶褐色土で構成され、深さは地表下約30cmに位置する。遺構としては、土坑36基・溝状遺構70条が確認された。溝状遺構の多くが平行して走向する。また、凹地が3ヶ所調査区内に位置しており、北西から南東方向に主軸を持つものが2ヶ所、北東から南西に主軸を持つものが1ヶ所である。

溝状遺構は北西から南東に走向し、覆土からは近世の煙管などが出土した。これらは調査区中央と北東側の緩斜面地に分布し、走向する方向は傾斜に対して直交している。規模や形状が類似することから、昨年度調査によって検出された溝状遺構と同じ性格を持つものであると評価される。近世段階において天正寺遺跡は焼畑を行っていた場所ないしは畠地であると推定される。これは、天明4年(1784)に描かれた「与縄村絵図」に調査区周辺が「大豆場」であると記載されていることから判断される(『都留市史 資料編』)。土地利用の状況から類推すると、近世の遺物を包含する溝状遺構は畠間の凹地である可能性が高い。また、溝状遺構周辺からは、円形・不整形の土坑が検出されたが、遺構覆土の種類と遺構内の出土遺物から、近世だけではなく縄文・近代における土坑も確認された。調査区には3ヶ所の凹地があるが、それぞれが近世段階の溝状遺構を切っていることから、比較的新しい時代の土地改変であることが分かる。

調査の結果、全城に近世段階の遺構が分布するのと同時に、縄文時代の遺構・遺物が点在する様相が確認された。都留市井倉における山林が、縄文時代においては一時的な活動の場として、江戸時代においては恒常的な生産の場として利用されたことが分かった。



遺構精査状況 1



遺構精査状況 2



遺構検出状況 1



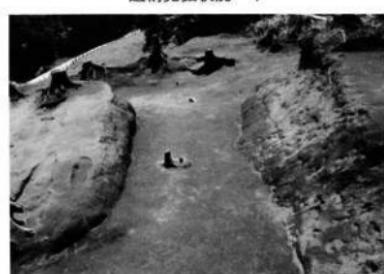
遺構検出状況 2



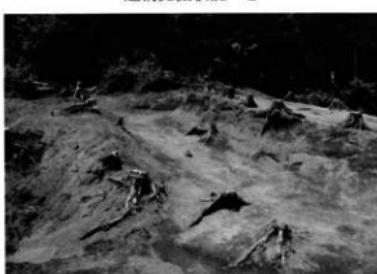
遺構完掘状況 1



遺構完掘状況 2



遺構完掘状況 3



遺構完掘状況 4

## 1-2 玉川金山遺跡

所在地 山梨県都留市玉川字上ノ原200-1他

事業名 都留バイパス建設事業

調査期間 2006年8月14日～2007年1月19日

調査面積 2,086m<sup>2</sup>

調査担当 網倉邦生・酒井玄曉



玉川金山遺跡 位置図

玉川金山遺跡は桂川の支流戸沢川と菅野川が合流する付近の平坦地に位置する。遺跡の北側には縄文・古墳時代の散布地である玉川遺跡や縄文時代早期の住居跡が発見された生出山山頂遺跡、西側に縄文時代の散布地である宮原遺跡や「和同開珎」が出土した奈良・平安時代の三ノ側遺跡がある。

2006年度の発掘調査は当初5区を対象として行ったが、国土交通省より3区と5区との間に位置する6区を先行して終わらせて欲しいとの要望があったため、途中で調査対象を変更した。このため、5区の第Ⅲ面は2007年度に調査を行う予定である。5・6区の調査を実施するにあたり、これまでの調査で確認された土層と対比しながら進めた。この結果、2004～2005年度調査と同様に3つの遺構面が確認された。さらに、5区の第Ⅱ面の下において遺構面（第Ⅱ面下）が検出されたため、記録保存措置をとった。各面ごとの成果は次の通りである。

5区の第Ⅰ面は灰褐色土で構成され、深さは地表下0.4～1.1mに位置する。この面から土坑24基・溝状遺構27条・石組1基が確認された。この面は中世に比定されるが、遺構外から鉄鎌が出土した。

5区の第Ⅱ面は黒褐色土層で構成され、深さは地表下0.5～1.9mに位置する。この面からは土坑13基・溝状遺構30条が検出された。この面からは主に東西軸に走向する溝状遺構が確認されている。都留市鷹の巣遺跡からも同様の溝状遺構が検出されており、中世に比定されていることから、該期に構築された可能性が高い。溝状遺構の覆土からは鉛滓が検出されている。第Ⅰ面と同じく遺構外から鉄鎌が出土した。

5区の第Ⅲ面は褐色土で構成され、深さは地表下0.7～2.2mに位置する。この面からは土坑14基・溝状遺構4条が確認された。第Ⅲ面からの層厚は20～30cmである。この面は奈良時代に比定される。これまでの調査により奈良時代と中世の遺構はほぼ同一のレベルから確認されているが、5区は山に近い場所にあるため、堆積作用の影響を受け、中世と奈良時代の生活面にレベル差が生じたものと考えられる。

6区の第Ⅰ面は灰褐色土で構成され、深さは地表下0.4mに位置する。この面から土坑1基・溝状遺構9条・石組1基が確認された。この面は中世に比定されるが、近世の土坑墓が1基確認された。

6区の第Ⅱ面は褐色土層で構成され、深さは地表下0.8～1.9mに位置する。この面からは土坑7基・溝状遺構3条が検出された。土坑は円形を呈しており、これまでの調査により確認された形状と類似する。

6区の第Ⅲ面は明茶褐色土で構成され、深さは地表下4.3～5.0mに位置する。この面からは焼土集中3基・土坑49基・礫集中1基が確認された。この面は縄文時代早期に比定される。土坑の内、8基は底面が焼けているか、焼土が堆積しており、炉穴であると判断できる。その内、23号土坑は天井部が崩落せずに残存した状況で検出された。炉穴の平面形はアーモンド状を呈し、焼土が近接する位置から出土することから、廃絶と再構築を繰り返し使用したことが分かる。出土した土器の年代もこれまでの調査で確認された時期と同じであり、限定された時間幅の中で使用・廃絶された遺構であると評価できる。

調査の結果をまとめると、中世・奈良時代・縄文時代早期の遺構群が検出された。ただし、調査区が山に近いため、遺構間の土層堆積が厚い。これまで中世と奈良時代の遺構は同一の確認面として把握されていたが、5区で明確なレベル差が生じていることがその証左である。また、2004年度の3区には建物跡が検出されているが、5区からは検出されていない。のことから、5区は集落の周縁に位置していると考えられる。



5区 第Ⅰ面遺構検出状況



5区 第Ⅱ面遺構完掘状況



5区 第Ⅱ面遺物出土状況



6区 第Ⅰ面遺構検出状況



6区 人骨検出状況



6区 第Ⅲ面遺構検出状況



6区 第Ⅲ面炉穴完掘状況



6区 第Ⅲ面炉穴完掘状況

## かじかざわかしあと 1-3 鰐沢河岸跡（横町地区）

所在地 山梨県南巨摩郡鰐沢町八幡1501-8外  
事業名 一般国道52号改築（甲西道路建設）事業  
調査期間 2006年7月3日（月）～7月31日（月）  
調査面積 110m<sup>2</sup>  
担当者 保坂康夫・長田隆志

甲府盆地を北から南へ流れる釜無川と、東から西へ流れる笛吹川の合流地点より約3km下流に、鰐沢河岸跡は位置する。この地は駿州街道と甲府盆地内の東西陸路交通の結節点であり、甲府盆地内外を結ぶ重要なルートの一つでもある。

鰐沢河岸跡は、慶長19年（1614）京都の豪商、角倉了以によって開削された富士川舟運の拠点となる港の一つである。富士川舟運では一般物資ばかりでなく、江戸幕府に納める年貢米の輸送にも携わった。寛永9年（1632）に開始された「御廻米」は、富士川舟運で静岡県富士川町の岩淵へ、さらに陸路・海路にて清水港に集積し、江戸の浅草蔵前まで海路で輸送された。年貢米を集積する「御米蔵」が鰐沢に設置され、さらに増穂町の青柳河岸や市川三郷町の黒沢河岸にも置かれ、これらは「三河岸」と呼ばれた。最南端部には、陸路・水路の人や物資の往来を監視するために、幕府により鰐沢口留番所が設置された。鰐沢は陸路の宿駅としても整備され、交通の要衝として繁栄した。

このような富士川舟運に関わる繁栄は近年の発掘調査により、明らかになりつつある。特に、甲西道路建設に伴う発掘調査は、平成12年度から今年度まで継続して行われており、これまでに江戸幕府が建設した米蔵跡や口留番所といった公共施設、商人などの住宅跡とそれに伴う石垣や井戸などが検出されている。またそれに伴って、江戸時代中頃から明治時代にかけての陶器、寛永通宝や天保通宝などの古銭、泥メンコなどを初めとする多くの遺物が出土している。磁器は、肥前焼きを中心とする碗や皿、鉢などが豊富にみられる。

平成18年度は平成17年度に引き続き、鰐沢河岸跡最北端に位置する横町地区的調査で、鰐沢税務署入り口部分に当たる。調査区では、鰐沢河岸を支えた商人等の住宅跡と思われる遺構を確認した。

検出した遺構は、2列の石垣と1列の石列で、いずれも南北方向に平行して構築されていた。西側から東側に向かって石垣の高さが低くなっている、いずれも東に面して構築されている。中段の石垣背後には礎石3基が配列されており、石垣に近接して建物が存在していた可能性がある。中段のものが他の石垣を埋めてより新しく構築されており、石垣背後の裏込めから出土した陶磁器から、19世紀前半に構築されたものと思われる。

最終的に地表下2mまで掘り下げたが、地表下0.5mほどの攪乱層より下位で石垣を埋めている上層は暗褐色シルト層であり、手描染付磁器や銅錢、泥メンコなどを含むことから、幕末から明治初期の河川氾濫により形成されたものと考えられる。何層かに分層でき、明治初期頃の富士川の何回かの洪水で急激に埋没していたものと思われる。

出土した遺物は、幕末から明治初期の肥前焼きやすり鉢などの磁器、焰硝などの土器、泥メンコなどの土製品、寛永通宝などの銅錢、かんざしなどの金属製品、火打ち石などの石製品、ガラス製品などがある。狭い範囲の調査にもかかわらず比較的多くの遺物の出土が認められ、遺構や土層などの時期決定の重要な要素となると思われる。



鰐沢河岸跡C 位置図



調査区全景（南方から望む）



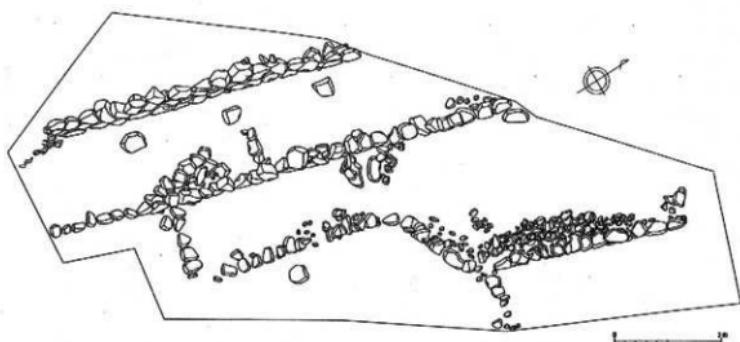
調査風景



石垣と礎石列



約2mの土層の堆積



造構配図

## 1-4 甲府城下町遺跡（甲府地方裁判所地点）

所在地 甲府市中央1丁目10-7

事業名 甲府地方裁判所新官工事

調査期間 2006年11月1日～12月25日（本調査）

1月22・23日、2月26日（立ち会い調査）

調査面積 I区：120m<sup>2</sup> II区：390m<sup>2</sup> (130m<sup>2</sup>×3面)

調査担当 鶴田博・野代恵子



甲府城下町遺跡 位置図

調査対象地には旧裁判所庁舎が建っていたが、その部分には地下3mにおいてコンクリート基礎が入っており、さらにその下には地盤を安定させるため唐松杭を1mピッチで地下へ16mほど埋め込んであることがわかつていたため、建物がなかった部分を選んで2箇所の調査区を設定した。旧庁舎の玄関部分をI区、中庭部分をII区として調査をおこなった。

### I区の調査成果

江戸時代において、甲府城は内側から「内堀」「二の堀」「三の堀」と3つの堀によって囲まれていた。裁判所から南へ40mほどの旧東急駐車場（中央1丁目188番地）の調査において「二の堀」跡が見つかっており、I区では「二の堀」の西側部分が見つかる可能性があったため、それを念頭において調査を行った。今回の調査では調査区が狭いため、188番地地点の調査から堀底は地表下4mほどと想定されたため、また調査区がコンクリート壁に囲まれており調査区壁面での土層観察が不可能であったため、最終的には調査区を東西に分断した形で土層観察を行うこととした。その結果、黒褐色粘土と黄褐色粘土の地山が西側に向かって切り取られ、その後に茶褐色シルトや黒褐色土、粗砂、灰褐色粘土などが水平方向に堆積している様子が観察された。これは188番地地点の土層がしりとり具合の違う土や砂がランダムに入り込んでいるのと比較すると大きく異なっていた。I区の土層では地表下3mほどのところに50cmほどの厚さの粗砂層が堆積しているが、これだけの砂が堆積するとなると堀内には川のような流れがあったものと考えられる。またその粗砂層の上には黒褐色のやや土壌化した土層がみられ、これからさらすれば堀内の水が完全に干上がっていた状態があったものと推測される。果たして水が閉ざされた空間である堀の中でこのような環境があったのか疑問であるが、堀の中の土層堆積は場所によって異なることも考えられるため、これが「二の堀」ではないとは言いかねない。しかしながら江戸時代中期の絵図や幕末の絵図では、南北方向に延びる「二の堀」は調査地周辺で若干東に振れてまた南に延びている様子が描かれているため、I区よりももっと平和通りに寄った場所に「二の堀」があった可能性もある。

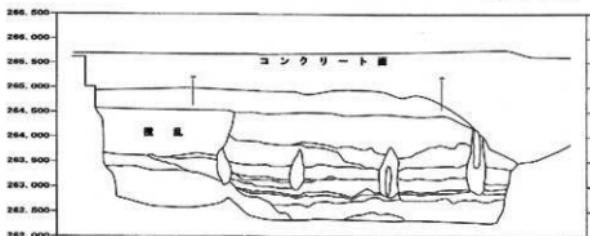
### II区の調査成果

調査地周辺は江戸時代、柳沢吉保・吉里が甲府城主だった頃（1704～1724年）には武家屋敷が広がっていた。調査地点は柳沢吉里の家老である「澣口平太左衛門」の屋敷地であり、幕末には「御薬園」があった場所にあたる。しかしながら江戸時代と考えられる現地表下約60cmの面からは溝が4条見つかることとなり、江戸時代の陶磁器類の出土も少なかった。その一方で現地表から1mほど下がった位置で古墳時代初頭～平安時代の遺物を含む黒褐色土層が確認されたが、中には古墳時代初頭の台付甕や古墳時代後期の杯、甕、須恵器环身・無蓋高壺などが含まれていた。遺物の多くは古墳時代のものであり、これに平安時代の土器がわずかに含まれている。また平安時代の土器片については表面に摩滅が見られるため流れ込みの可能性もある。これらの遺物を取り上げると竪穴状遺構4基、ピット数基が確認された。炉やカマドを伴うような住居跡は確認されなかつたが、この竪穴状遺構とした浅い凹みの中からは土器の出土量が割合多く、破片も大きめという傾向があった。なお竪穴状遺構3面内では若干の焼土の集中箇所が見られた。また立ち会い調査において竪穴状遺構3・4の西側に近接する箇所にトレーンチを入れたところ、トレーンチ南側で覆土中に炭化物が割合多く見られたことは特筆される。その

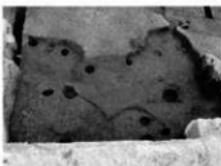
他、ピットについては中に焼けた石が入っていたものも確認されている。遺跡の性格については今後の整理作業の中で明らかにしていきたいが、須恵器の中には非実用的な器種である無蓋高壺の破片が含まれるなど、周辺に後期古墳などが存在した可能性もある。調査地周辺の当時の地形については現在では市街地化が進み分かりにくいものの、甲府城跡のある小山から南に向かって舌状台地状の高まりがあったものと考えられる。甲府城「二の堀」は旧河道を利用して造られたとも言われており、この高まりの西側には水の流れがあったことも想定できる。日当たりも水はけもよく、近くに水もあったとすれば、人々が生活する場としては最適だったであろう。これまで甲府の中心市街地から城下町以前の遺物・遺構がまとまって見つかることは少なく、今回の調査は貴重な成果をあげたと言える。



▲ 調査区全景



▲ I区 土層図



豊穴状遺構3・4 全体



土器出土状況



▲ II区 3面 調査区全体図



ピット(中に焼けた石が入る)



豊穴状遺構2 土器出土状況



豊穴状遺構2 売出土状況



台付賣出土状況

## 1-5 甲府城下町遺跡（甲府駅北口地点）

所在地 甲府市北口2丁目  
事業名 新たな学習拠点整備事業に伴う発掘調査  
調査期間 2006年5月8日～11月21日  
調査面積 3,883m<sup>2</sup>  
調査担当 吉岡弘樹 鶴田博 野代恵子 上原勉 長田隆志



甲府城下町遺跡 位置図

甲府城下町遺跡〔新たな学習拠点建設事業〕は甲府市北口2丁目に所在し、甲府駅北口に近接している。調査地周辺は秩父山系から湧出し甲府市北部の山裾より甲府盆地に流下する相川によって形成された扇状地扇端部にある。調査地点は標高約280mの南緩傾斜地にあり、西方に相川、東方に藤川や標高約423mの愛宕山を見る位置に存在する。過去に当地点に近接して数カ所で発掘調査が実施されており、古墳時代以降の遺物等が数多く検出されている。また、中世の当該地は戦国期武田氏館跡城下町の一角を占め、江戸期以降、幕末期までは甲府城「山手御門」北側の山手小路・森下小路・橋小路に開まれた位置にある武家屋敷地に相当する。江戸梅沢期（1740年～1724年）の「甲府御城絵図」によると柳沢吉保家臣御寄合「根津文左衛門」らが居住していたことが理解できる。また、幕末にあたる嘉永2年（1849年）以降の「懐宝甲府絵図」では「中島・鳩田・カモミヤ」の屋敷地の他、空闊地が区画されている。

二年次に渡る発掘調査により、次のような成果が得られている。

造構は、当初は調査範囲のいたる所に後世の建物基礎、上・下水道施設等による搅乱による影響が想定できたが、井戸12基、溝状造構約50条、土坑約50基（墓坑を含む）、埋桶11基のほか多数の柱穴などが検出された。

井戸は素掘りで下方に井戸桶を有するタイプと内面に石積みのあるタイプに大別できる。

溝状造構については、そのほとんどが甲府城下町の街路区画に平行または直交するもので、現在のところ堀や生垣等とセットで屋敷等の区画がなされていたと推測している。

土坑は、各所から検出されたが直径2m以上の形状を呈するものが目立つ。そのほとんどの用途は不明であるが、戦国期と想定できる墓坑も數基含まれている。

埋桶については大型のものと小型のものがあり前者は便槽造構とも想定できようが、後者は現在のところその用途は不明である。

また、遺物の検出は中世から近世、近代まで様々である。種類も喫茶用具（土瓶、急須）、食膳用具（猪口、湯飲み、皿、茶碗）、調理用具（擂鉢、捏鉢、焜炉）、神酒徳利や仏飯器などの信仰に関わる用具類など多岐にわたっている。その他、江戸中期以降、生物の飼育や花木の栽培鑑賞が流行し、中でも、文鳥や鳩などの小鳥が盛んに飼育



I区 完掘状況

され、さえずりや美しさが嗜好されるようになる。これらの趣味の用具として、鳥籠の中に入れて水や餌を入れておくための餌猪口（えじょく）や植木鉢なども出土し当時の趣味娯楽の世界を垣間見ることができた。

今回の調査で以上のような成果が得られたことは、広大な甲府城下町遺跡の一端を探る上で欠くことのできない歴史資料となることは間違いないであろう。



II区 完掘状況



石積み井戸 半裁状況



石積み井戸 検出状況



戰国期墓坑 検出状況



素掘り井戸 検出状況



埋桶 調査風景

## 1-6 小井川遺跡

所在地 中央市布施1871-1番地ほか

事業名 新山梨環状道路建設

調査期間 2006年5月15日～2007年3月30日

調査面積 1,800m<sup>2</sup>

担当者 依田幸浩・猪股一弘



小井川遺跡 位置図

調査区域は、昨年度の調査区西側隣接地で、約1,800m<sup>2</sup>の範囲を調査した。低地であり地下水位も高く、釜無・笛吹両河川の合流点方向に流动するかなり圧力の高い地下水の自噴帶を予想し、水路を遮断するためのシートパイルを事前に調査区の全周囲に設置するとともに、排水用の溝と水汲み上げ用の釜場を設け、水中ポンプで排水しながら発掘を実施した。

また、調査区域が市街地のこともあり、残土置場が近隣へ確保ができず、残土は一旦遠方の新山梨環状道路事務所の指定する場所（小井川駅東付近）までダンプで運搬することになった。（埋め戻しは、逆に運搬）

調査は、最初に駐車場・プレハブ設置等の場所を確保のため、調査区西部にトレンチを数本入れ、遺構がないことを確認後、埋め戻した。調査区中央から東部にかけては、重機により排水用の溝と釜場を設けながら、地表下約1.5m（第1面）までの表土を剥ぎ取った後、人力により精査を行った。第1面は調査区東壁沿いのシルト層を除いて調査区全体が砂礫に覆われていたが、精査の結果、以前の土地所有者（甲田氏）の敷地内にあった杭打ち溝と木枠で囲まれた洗い場等が発見された。これらの年代は、近代～現代のものである。また、調査区東壁沿いからは、立木（間隔・大きさ共に不規則）が南北に並列して20数本検出された。

第1面の砂礫層をさらに深く掘り進めると、地表下約3m付近（第2面）で調査区北西側の一部と東壁沿いに5cm程の礫が混ざるシルト層が出現した。北西側からは平安～中世時代の土器が出土したが、遺構は発見されなかつた。一方、東壁沿いの南東角付近からは平安時代の竪穴式住居跡（9世紀中頃）を検出した。この住居跡からは補強材に木材が使用されたカマドが発見され、カマド構築方法の新しい発見になった。更に調査を進めたが、シートパイル付近のため、それ以上東に進めず、また土砂崩壊の危険があるため、シートパイルから離れた1軒の一部を調査し、シートパイル付近は住居跡のプラン確認と遺物の採取をするだけに止めた。プラン確認からは、3軒ほどの住居跡が重なって存在し、そのうちの2軒はさらに東側の調査区外に広がっている状況がみられた。

東壁の立木出土付近の断層をみると、シルトが堤防の法面状に斜めに堆積し、調査区外東側の道路下に延びている状況が確認された。文化3年（1806）に作成された「布施村絵図」には布施の宿（現在の県道市川大門線沿線）の東側に線が描かれて「信玄堤」と記入されており、この線が調査区外東側の道路の位置に該当するとすれば、人工的堤防の可能性も考えられる。ただし、堤防が存在したとしても本体は東側の道路下にあると思われ、全体の形状が把握できなかった。東壁沿いから検出された立木の分析などを含め、今後検討していかたい。

調査の結果、調査区の東壁付近を除いて調査区全体が地表下3mまで砂礫に覆われていることが確認された。この砂礫は旧釜無川の流れによって堆積したもので、本遺跡から現在の釜無川にかけて広く堆積していることが推測される。しかし、その下層にはシルト質の平坦面が一部残っており、平安時代の住居跡や平安時代～中世の遺物が発見された。少なくとも平安時代には釜無川の流路は本遺跡付近までは南下しておらず、遺跡周辺には集落が広がっていたと推測される。遺跡の東側では昨年度実施した調査により中世の布施庄の存在を示唆する戦国時代の大型建物跡が発見されているが、本遺跡における平安時代の住居跡の発見は、文献上では平安時代末期には成立していたとされる布施庄に繋がる平安時代の集落が当地に存在していたことを裏付ける貴重な資料となる。



第1面全景（空撮写真）



調査区東壁シートパイル際での住居跡プラン確認状況



調査区東壁沿いの立木列



平安時代の住居跡



立木底部検出状況



調査風景



調査区東壁沿いの土層断面



カマドに打ち込まれた木製の杭出土状況

## 1-7 足原田遺跡

所在地 山梨市万力948外  
事業名 西関東連絡道路建設事業  
調査期間 2006年4月25日～6月12日  
調査面積 約300m<sup>2</sup>  
調査担当 田口明子・上野桜

足原田遺跡は、甲府盆地の北東部、笛吹川扇状地の西縁、山梨市万力に所在している。500m東には笛吹川が南東方向に流れている。標高は320～325mで南北方向に緩やかに傾斜する地形に立地し、遺跡は、東西約400mの範囲で確認されている。

本遺跡の調査は、西関東連絡道路建設事業に伴うもので、平成15（2003）年度からの継続調査であり、今回は平成15年度に調査（第1次調査）した範囲内の未調査箇所の調査を行った（第4次調査）。

調査区の西側では、全面に拳大から人頭大、またそれ以上の大きさの礫が堆積しており、旧河道を確認した。旧河道は調査区全体の約4分の3の面積を占めている。

旧河道からは、縄文・古墳・平安・中世の遺物が混在して出土した。礫の間から古墳時代の土師器の壺やS字状口縁付壺の破片、平安時代の土師器壺の破片、須恵器壺の破片などが出土している。また鉄滓も約110点（約4400g）出土し、縄文時代中期以降の磨製石斧も1点出土した。旧河道から出土した遺物の量は少なく、土器片も摩耗していた。

調査区の東側の旧河道外では、砂層や黒色砂質土層の堆積が見られ、遺構は伴わないが、摩耗していない古墳時代前期の土器片が集中して多数出土した（約1500点）。土器片はその場で押しつぶされたような状態で出土し、接合の結果、ほぼ完形になったものもあった。

また、調査区東端では、南東角に石を主体とする竈を持つ、平安時代（11世紀後半）の住居跡（約3.0×2.7m）を1軒確認した。住居跡からは土師器の壺や壺の破片が出土し、中央付近からは鉄織などの鉄製品が3点出土している。また、窓内からも土師器の壺や壺の破片が出土した。その他に時期は不明であるがピット3基を確認した。

今回の調査では多くの鉄滓が出土したが、平成15年度～17年度調査では羽口片などの鍛冶関連の遺物が出土している。これらのことから遺構は確認されなかったが、本遺跡内に鍛冶関連遺構が存在する可能性が高いと言えるだろう。

また、今回、古墳時代の遺構は発見できなかったが、古墳時代前期の土器片が多数出土したことから、この遺跡の近くに古墳時代のムラの跡があった可能性が高いと考えられる。



足原田遺跡 位置図



調査区全景（上が北）



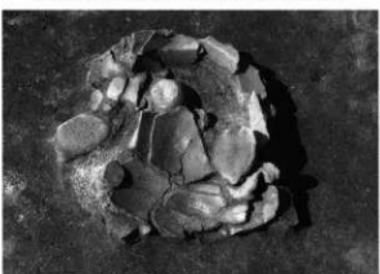
遺物出土状況（調査区西側旧河道内）



磨製石斧出土状況（調査区西側旧河道内）



土器片集中出土状況（黒色砂質土層）



土器片集中出土状況（黒色砂質土層）



1号住居跡



1号住居跡窓



鉄製品出土状況（1号住居跡）



発掘調査風景

## 1-8 延命寺遺跡

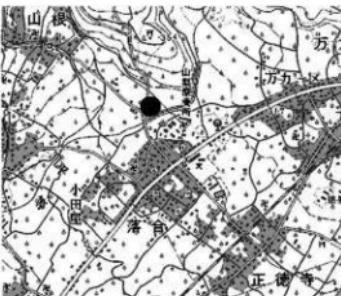
所在地 山梨県山梨市落合字延命寺180外

事業名 西関東連絡道路建設

調査期間 2006年5月8日～6月5日

調査面積 約2,200m<sup>2</sup>

調査担当 村石真澄・芦澤昌弘



延命寺遺跡 位置図

延命寺遺跡は甲府盆地の北東縁の標高309mに位置し、北西に大藏經寺山・兜山などの山々を背負い、南に開けた土地に立地している。この土地は明治時代以前の笛吹川本流の氾濫原にあたり、河川の影響を強く受けた土地である。延命寺遺跡は、2003年に山梨厚生病院授産施設建設に伴って、発掘調査が山梨市教育委員会と側山梨文化財研究所によって実施され、古墳時代前期・平安時代・近現代の遺構・遺物などについての調査成果が報告されている。

西関東連絡道路建設予定地内に周知の遺跡である延命寺遺跡が存在するため、平成15年11月から12月に試掘を行ったところ古墳時代の土器片が大量に出土し、遺構が存在する可能性が高いことが判明した。これにもとづき、事業主である西関東道路建設事務所と学術文化財課と埋蔵文化財センターの3者で協議を行い、本調査を実施することとなった。

試掘調査の結果から遺構・遺物が存在する範囲が限定されると予測されたため、本調査はまずトレーンチ調査によって、遺構・遺物が集中する範囲を把握することから着手した。5本のトレーンチ調査により、遺物の集中する部分が調査対象範囲中の南西部に限定できることが確認できたため、この南西部の表土を全面的に剥ぎ、調査を実施した。

この南西部では、古墳時代前期の土器と木製品類が集中的に出土した。全体が完全に残っている台付壺形土器（煮炊きに使われたもの）は、微細な破片までそのまま残っており、出土した場所で土圧により割れたと推定できるものであった。また、他にも残存状態が良好な土器、さらに木製品と思われる木片が多く出土し、集落跡が近くに存在する可能性が高いと判断し、精査をおこなった。しかし、遺物を包含する堆積層は、河川堆積物で構成されており、住居跡などの遺構を確認することができなかった。延命寺遺跡は、明治時代以前の笛吹川本流の氾濫原にあたり、この付近にあった集落が流され、土器などの遺物だけが残された可能性が高い。遺物包含層より下位には、大甕を含む砂礫層が広がっていた。遺物包含層は、小甕から大甕を含む河川堆積物の上層にあたる細砂・シルトを基調とするものであった。このことから、ゆっくりとした流れの川の堆積物中に土器が徐々に埋没したものと考えられる。

出土した土器片の総量はコンテナ5箱分であり、主要な土器はいずれも古墳時代前期に属するものである。器種の内訳は、S字状口縁台付壺2、台付壺形土器4、壺5、甕1など煮炊に関わる器が12点、小型丸底壺1、高壺7、器台1、手捏ね土器1と供獻・盛り付けに関わる器が10点、貯蔵に関わるが壺2点で計26点である。ここからみると、祭祀に関連する可能性の高い供獻・盛り付け具は、煮炊具とほぼ同じ点数であり、一般的な集落に関わる遺物と考えられる。

これまで、河川堆積層からの出土遺物は、流水によって運搬された際に摩耗などを明瞭に受けると思われていたが、延命寺遺跡の河川堆積層からは、予想をはるかに越え遺存状態の良好でほとんど摩耗していない土器が出土しており、河川堆積層であっても、慎重な調査が必要な場合があるという認識を新たにするものと考えられる。



延命寺遺跡調査区南西部



流路跡の発掘作業



台付壺の発見



小型壺の出土状態



台付壺の出土状態



撮影のための清掃作業



調査区南西部俯瞰（西から）



流路跡完掘状態（東から）

# 1-9 北田中遺跡

所在地 山梨県甲州市勝沼町山429・430  
事業名 国道411号塩山バイパス道路建設  
調査期間 2006年8月7日～9月15日  
調査面積 約130m<sup>2</sup>  
調査担当 村石真澄・芦澤昌弘

北田中遺跡は、塩山駅から南2.5kmの重川の南岸に形成された低位の氾濫原に位置する。現在は一部に建物が建っているが旧来は、水田、果樹園などに利用されてきた土地である。



北田中遺跡 位置図

国道411号塩山バイパス建設事業に先立ち埋蔵文化財の有無確認のために、平成17年度9月8日に試掘調査を行ったところ、古墳時代の土器片が出土し、新たな遺跡を発見した。これにもとづき、事業主である土木部鉢東建設事務所と学術文化財課と埋蔵文化財センターの3者で協議を行い、今回の発掘調査を実施することとなった。

発掘調査では、粗砂～シルトを主体とする河川堆積層中から、古墳時代後期を主とする土師器・須恵器片などを発見した。出土した土器の量は、コンテナ（長さ45cm×幅30cm×深さ25cm）7箱分であった。この中にはほぼ完形の須恵器の壺蓋や土師器の壺や甕を含んでおり、近くに住居跡などの遺構が存在する可能性が高いと判断して、慎重に調査したが、遺構を確認することができなかった。また、遺跡の立地から水辺の祭祀に関連するとも思われるが、実測可能な個体の概数では、高杯5、壺18（大半が須恵器小片）、甕38、瓶2、壺・瓶2、ミニチュア1であり、甕などの日常的な煮沸具が過半数を占め、一般的な生活により残された可能性が高いと考えられる。しかも、土器は全体の形がわかる残存率の高いものが多く、近隣で集落が営まれていたものと推測される。

今回の調査で確認した基本的な層序は、下部には最大径1.5m以上の極めて大きな巨礫を含む砂礫層があり、この巨礫が堆積した段階は現況の河原のような状態であり、この礫の間を褐灰色砂質シルトや黒色粘質シルトなどが充填し堆積している。遺物は主に褐灰色砂質シルト中に含まれている。

この上方には、酸化鉄が垂直に濃集した部分を含む褐灰色シルト質土など水田耕土と考えられる堆積層2枚が認められる。また、この水田層の間に、灰シルトの薄い堆積層があり、流速の低い溢流洪水を受けたものと考えられる。さらに上方には、耕作土と思われる褐灰色細砂混じりの褐色砂質土がある。このさらに上方から現耕作土直下までには、厚さ20～30cmに達する風化花崗岩の岩片（1～3mm）混じりの灰粗砂層が部分的にあり、これは明治40年の水害の堆積層と考えられる。隣接する葡萄園の地主からは、「ここは明治40年の水害でひどく流されたので、遺跡は存在しないと思う。」という話を聞いた。しかし、明治40年水害の堆積層から約50～60cm以下に遺物包含層が存在したのである。

この北田中遺跡の立地は、重川の低位の氾濫原にあたり、洪水の被害を受ける可能性の高い土地であるが、こうした場所の近隣に集落を営んでいたと考えられる。こうした低位の氾濫原の近辺に遺跡が残されていたことは、この付近の水田開発などが進められることを示すと考えられる。今回、発見した出土遺物は、古墳時代後期のものが最も古く、かつ出土量も大半を占めており、遙くとも同時期には、この付近の開発が進められたことを示すと考えられる。



北田中遺跡調査区（北から）



須恵器壺蓋出土状況



北田中遺跡調査区（北から）



土師器出土状態



調査区東壁土層断面



写真撮影のための清掃作業



写真撮影のための清掃作業

## 1-10 谷抜遺跡

所在地 南都留郡富士河口湖町河口字谷抜  
事業名 国道137号河口2期バイパス建設事業  
調査期間 2006年5月9日～8月11日  
調査面積 1,250m<sup>2</sup>  
調査担当 山本茂樹・正木季洋

谷抜遺跡は富士河口湖町河口地内、河口浅間神社の南に位置し、本遺跡の北側に近接する寺川から南に存在する愛宕山の尾根裾までの間に発掘調査地点となる。調査地点は東から西へ緩やかに傾斜し、現地から西方向には河口湖が遠望できる眺めの良い場所である。

河口2期バイパス建設に伴い平成17年度に建設予定地内で試掘調査を行った結果、新たに発見された遺跡であり、1,250m<sup>2</sup>を対象とし、平成18年5月から3ヶ月間の期間で発掘調査をおこなった。

調査の結果、縄文時代・平安時代・中世・近世の遺構・遺物が見つかった。中世・近世の遺構は地表下約1mの深さにおいて確認され、調査区の北・南端および中央部に分布する。遺構は土坑1基、溝状遺構1条のほか柱穴が規則的に並んだ状態で確認され、その配置から3軒の掘立柱建物跡があったと考えられる。遺物は柱穴から陶磁器が出土したほか、蹄鉄・釘などの鉄製品が出土している。

平安時代の遺構・遺物は中世・近世と同じく地表下約1mの深さで確認され、調査区の全域に分布する。平安時代の河口地内では古代の官道が通過しており、また付近に「河口」の駅の存在が推定されることから、集落があると予想されたが、住居跡などの建物跡は見つからず、土坑と呼ばれる径約1mの穴を多数確認した。土坑の多くは墓穴と考えられるが、30cm大の平石が出土するものや、土坑内に版築と呼ばれる土をつき固めた痕跡が残るなど、建物などの柱を立てたと思われるものが存在する。遺物は遺構中より土器小破片が出土したほか、土鍤や釘などが出土した。

縄文時代の遺構・遺物は縄文時代早期から後期にかけてのものであり、中近世・平安時代より下、最大約3mの深さで確認した。縄文時代後期では斜面地上に焼土跡1基、柱穴13基を発見した。縄文時代早期では料理に使用したと考えられる炉穴3基、土坑4基、柱穴54基を検出した。遺物は土器・石器などが出土し、早期・前期・後期の遺物は地層ごとに出土した。縄文時代の遺構・遺物の分布は、調査区北側の南西向き斜面上に縄文時代早期・前期が、調査区南側の西向き斜面上に縄文時代後期が分布する状況が確認された。

遺物出土量は、縄文時代・平安時代の土器・石器及び、平安時代・中近世の鉄製品などプラスティックコンテナ2箱に及ぶ。



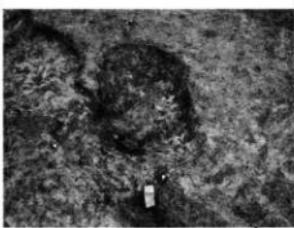
谷抜遺跡 位置図



谷抜遺跡全景



1号柵列 (掘立柱建物跡)



14号土坑 (炉穴)



7号土坑 (版築)



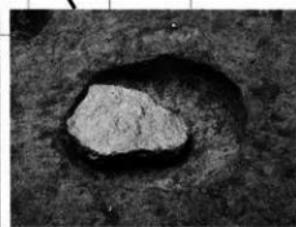
18号土坑 (炉穴)



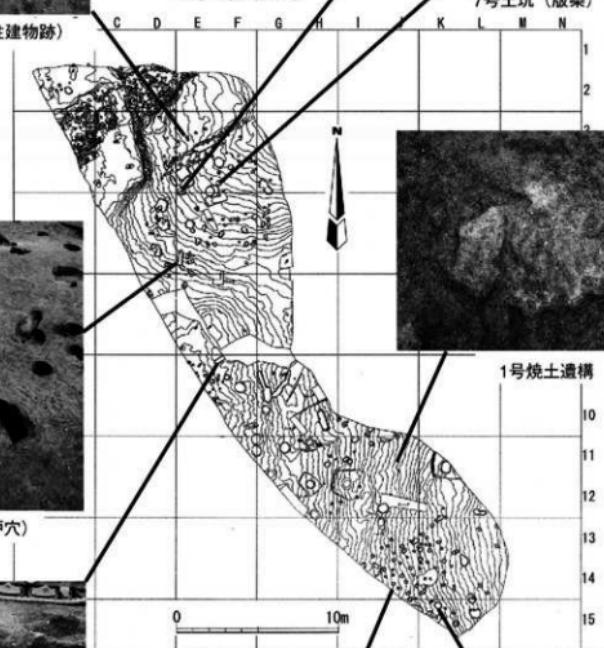
3号溝状遺構



2号柵列 (掘立柱建物跡)



25号土坑 (礎石)



谷抜遺跡全体図 ( $S=1/300$ )

## 1-11 西畠B遺跡

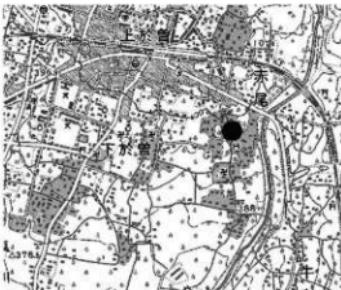
所在地 山梨県甲州市塩山赤尾672番地外

事業名 西関東連絡道路建設

調査期間 2006年7月5日～9月13日

調査面積 約550m<sup>2</sup>

調査担当 村石真澄・芦澤昌弘



西畠B遺跡 位置図

西畠B遺跡はJR塩山駅の南東約500mにあたり、重川が形成した扇状地上の標高約400mの場所に立地する。

今回の発掘調査を実施するに至った経緯は、国道411号塩山バイパス道路建設予定地内に周知の遺跡である西畠B遺跡が存在するため、平成17年2月8日に試掘を行ったところ、15世紀に位置づけられる内耳鍋や土器が出土し、遺構が存在する可能性が高いと考えられた。これにもとづき、事業主である土木部峠東建設事務所と学術文化財課と埋蔵文化財センターの3者協議により、発掘調査を実施することとなった。

調査範囲は狭いながらも高さ約1.5mの石垣で南北に分割され、北半は石垣で保護され高く、南半はこれに比べ低い土地であった。そこで発掘調査は、土地の標高差が大きいことに加え、排土置き場を確保するために二段階方式で行った。具体的には、まず調査範囲の南半の調査を着手し、南半の調査の終了後に、北半の発掘調査を実施したこととなる。

今回の調査範囲は、重川が形成した古い扇状地上の旧河道にあたり、下部には巨礫混じりの砂礫層が形成されており、この上部に巨礫～大礫があり、これらの間を充填しながら粗砂～シルト層が堆積している。そして、上部の粗砂～シルト層中から、繩文土器片・黒曜石など、また14～16世紀に属するカワラケ・内耳鍋、さらに近世から近代に属する陶磁器などが出土した。そこで、これらの遺物に関連する遺構が存在すると想定されたため、丹念に精査を行ったが、近世以前の遺構を確認することはできなかった。粗砂～シルト層の形成は、基本的に流速が低いながらも流水の影響で堆積したものであり、このために遺構は確認できなかったものと考えられる。今回の調査範囲は旧河道内に限定されると思われる。遺物はゆっくりとした流水のために、大きく移動していないが、再堆積したものと理解される。

かつての土地所有者からの聞き取り調査により、南北の境となっている石垣は、明治40年の大洪水後に築いたものであることが判明した。石垣を積み、大量にもたらされた土砂を入れて北半を高い土地にしたとのことであった。小礫～巨礫の集中範囲で確認した石列は、この石垣に伴う排水遺構と考えられる。

発掘範囲の西側に隣接する高地上には、大きな屋敷が集中する古い集落が存在する。この集落には「赤尾の十八人名主」との言い伝えが残され、また黒川金山で金採掘に携わった集団「金山衆」のひとりと推定される保坂次郎右衛門尉宛の天正二年（1574）の武田家朱印状一通が伝わっており、古い起源をもつ集落と考えられる。調査地点から600m北の法蓮寺は、「甲斐国志」によれば、かつては古府中を経て黒川から現在の地に移ってきたと記されている。このことから、遺跡周辺の集落は、黒川金山との関連が深く、カワラケや内耳鍋の出土は、この集落の起源を具体的に示す資料と考えられる。



調査区北半作業風景



調査区南半作業風景



小礫～巨礫の集中範囲で石列確認



調査区南半（南から）



ラミナが顕著な第2トレンチ土層断面

## 2 整備事業に伴う調査

### 2-1 銚子塚古墳附丸山塚古墳

所在地 甲府市下曾根町923

事業名 銚子塚古墳環境整備事業

整備期間 2007年2月28日～3月14日

整備面積 7.72m<sup>2</sup>

担当者 笠原みゆき



銚子塚古墳附丸山塚古墳 位置図

銚子塚古墳は古墳時代前期の前方後円墳である。全長169mで県下最大、東日本でも最大級の規模を誇る。隣り合う丸山塚古墳とともに、昭和5年(1930)に国指定史跡となつた。その後、甲斐風土記の丘・曾根丘陵公園として整備が計画され、昭和58～62年に発掘調査と第一次整備が行われた。この発掘調査では墳丘や周濠の規模が確認され、埴輪や木製品等が出土している。又、整備では、銚子塚古墳・丸山塚古墳の墳丘に盛土をして、芝を貼るなど、史跡公園として活用されやすいものをめざし、吾妻屋やベンチ・遊歩道の整備、古墳の案内板の設置などが行われた。

第一次整備後、さらに公有地化が進められ、平成13年度・平成16年度にも発掘調査が行われている。平成13年度の発掘調査では、銚子塚古墳後円部南西部を発掘し、埴輪や木製品が出土した。平成16年度の調査では、銚子塚古墳後円部南西～北側部分と、前方部周辺が発掘され、埴輪・土器・木製品が出土した。特に木製品は、第一次整備の発掘調査で発見された木製品と同じ形のものが出土したり、笠形の木製品が割れた状態で発見された。また、直径20cmの木の柱が墳丘の裾付近から、埋められた状態で出土するなど、多くの成果を得た。

これらの発掘調査の成果を反映して、平成17年度には銚子塚古墳の後円部周溝やその周辺の整備が行われた。周溝北側には平成16年度の発掘調査で発見された「突出部」とよばれる遺構も復元整備された。これによって、指定史跡範囲で公有地化された95%の整備が終了したことになる。

今年度は、平成17年度に整備した「突出部」など、発掘調査で発見された特筆すべき遺構・遺物の説明板を設置する工事をおこなった。また、築21年目で老朽化した銚子塚古墳と丸山塚古墳の案内板の立替も一緒におこなった。説明板は土台に石材を使用し、ステンレスに樹脂をコーティング加工した説明板を取り付けるものである。設置数は7基で、銚子塚古墳・丸山塚古墳の案内板2基、遺構・遺物の解説板5基という内訳である。解説板は、平成16年度に出土した、笠形木製品・立柱・祭祀の時に組み合わせて使われたと考えている円筒形木製品・棒状木製品・蕨手形木製品が出土した場所と、昭和60年度に出土した円筒形木製品・棒状木製品・蕨手形木製品が出土した場所に設置した。



## 2-2 県指定史跡甲府城跡

所在地 甲府市丸の内1-6-1

事業名 舞鶴公園整備事業

調査期間 2006年4月1日～3月31日

担当者 宮里学・上原健弥

県指定史跡甲府城跡では、県土木部が「舞鶴公園整備事業」として平成2年度から園路・広場・電気・給排水・便益施設等の整備や、鍛冶曲輪門・稻荷門・内松陰門・稻荷櫓の復元に連動した発掘調査・石垣改修工事を実施している。

本年度は、9月から12月にかけて城内に変電盤を設置する電気設備工事と手摺を新設する工事の立会いを実施した。変電盤は、鍛冶曲輪と稻荷曲輪の2ヶ所に、手摺りは鉄門・中の門・天守台の階段に設置された。電気工事では、掘削時に江戸期の瓦片が出土したが摩耗が激しく、また遺構の検出には至らなかった。手摺設置工事では、階段に利用されている新補石材に穴をあけて固定したが、階段の石材には一部江戸期の階段が露出しているところがあるため、現地協議を実施の上、立会いをおこなった。

今年度は、昨年度天守台東面で実施した石垣修繕工事に引き続き、二の丸西面石垣で修繕工事をおこなった。本石垣は築城期の野面積み石垣で、築城後すぐに曲輪変更に伴う石垣の改変がおこなわれている。また、昭和30年代に一部改修工事が実施され谷積み部分が存在するほか、南側では間知積みが残る。埋め殺しの隅角部より北側では築城期の石垣が比較的残っている。しかし、明治以降メインテナンスがおこなわれていないため、詰石の欠落・石材の破損・孕みといった傷みが生じていた。今回の工事は、文化財の保存と公園の安全性の確保を目的として、県土木部と教育委員会が協力しておこなったもので、詰石や裏栗石の補充を中心とした作業を実施し石垣の補強と保存に努めた。ただし、天端部分については明治以降の改修が一部おこなわれた際に、控えの短い石材が使用される状況が確認され、安全管理上の理由から一部改修を実施している。

石垣部分の工事期間は、9月から11月までのおよそ3ヶ月で、対象となった石垣の面積はおよそ300m<sup>2</sup>である。現場では、工事に先行する形で事前調査を実施して、傷みの状態とその原因や施工方法等をカードに記入し、写真撮影と併せて現状の記録とした。調査の結果、施工対象地点は642ヶ所にも上り、改修部分等を除いた施工面積249m<sup>2</sup>に対する面積比から0.39m<sup>2</sup>につき1ヶ所であった。これを昨年度実施した天守台と比較すると、昨年度の施工実績が0.71m<sup>2</sup>につき1ヶ所だったことから、1.8倍になっていることがわかる。また施工面積を昨年度と比較すると、今年度は1.4倍に増えている。この石垣は石垣の安定化と安全の確保には本来改修工事を必要としていたが、修繕工事で対応することになった結果、昨年度に比べて施工数・施工面積が増えたと考えられる。

修繕工事実施後は、対象石垣上に木柵や落下防止柵の設置工事を実施した。この他、石垣下の歩道付け替え工事に伴う掘削時には立会いを実施した。なお、工事期間は12月から2月中旬までであった。

今年度は、石垣修繕工事に係わり2つの委託業務をおこなった。石垣調査では線刻画がみつかり、この保存処理を実施したが、これまでにこうした処理の実績が全国を含め前例がないため、その他の城内の線刻画を含めた合計7石で、異なる薬剤を用いるなど試験施工という位置づけでおこなった。また修繕工事実施後の記録として石垣の測量をおこない、石垣の変異変形を観察する目的で、定点観測を委託業務として併せて実施した。

甲府城跡では、平成2年度以来改修工事を実施してきた。こうした石垣も改修から最大で15年が経過しているため、安全管理上の目的から石垣の維持管理工事を2月から3月にかけて実施した。

甲府城鍛冶曲輪内に、旧甲府中学校（現 甲府第一高等学校）の石碑が保管されていた。これは、以前城内に甲府中学校が所在していたことに関係している。今回は、甲府一高の了承のもと、11月24日に石碑の移転を実施し、立会いをおこなった。



甲府城跡 位置図



電気設備設置工事（稲荷曲輪）



手掘設置工事（現地協議の様子）



修繕工事の様子



歩道付け替え工事



木柵設置工事の様子



委託事業（線刻画の保存処理）



維持管理工事の様子



甲府中学校の石碑移転作業

### 3 分布調査

#### やまなしけんないちゅうせいじいんぶんぶちょうさ 山梨県内中世寺院分布調査

##### 3-1 浄光寺遺跡

所在地 南巨摩郡南部町8,843番地外

遺跡名 浄光寺遺跡

調査期間 2006年10月23日～10月29日

調査面積 12m<sup>2</sup>

浄光寺遺跡は甲府盆地の南側に所在し、盆地を南流する富士川（釜無川）に注ぐ船山川と栗川にはさまれた丘陵上に位置する。

浄光寺は14世紀に南部地域を拠点とした甲斐源氏の子孫である南部氏の菩提寺と考えられており、かつて本堂背後には、南部氏のものと考えられる五輪塔や宝鏡印塔などの石造物おおよそ20基が位置していた。だが昭和44年の台風による山崩れにより土砂に埋もれてしまったため、昭和54年に探し出され、現在は本堂前面に安置されている。

今回の調査は、本堂及び太子堂周辺について中世にさかのばる遺構の存在を確認する目的でおこなった。本堂と太子堂の間に3本・太子堂前面に1本のトレンチを設定し、掘り下げをおこなったが土砂崩れの痕跡が著しく今回も中世にさかのばる遺構を確認することはできなかった。

##### 3-2 苗敷山山頂遺跡（宝生寺関連）

所在地 茂崎市旭町上条南割地内

遺跡名 苗敷山山頂遺跡

調査期間 2006年11月1日～11月16日

調査面積 81m<sup>2</sup>

苗敷山は甲府盆地を北から南へ流れる富士川（釜無川）の右岸に位置する山で、標高は1,032mを測る。苗敷山山頂には五穀豊穰にかかる伝承から建立されたとされる穗見神社が立地し、とくに江戸時代には竹ノ内地区に所在する里宮から山頂の奥宮まで、多くの参拝客で賑わったと伝えられる。

遺跡は奥宮の西側に位置する。2001年には茂崎市教育委員会により遺跡北側の発掘調査がおこなわれ、平安時代の堅穴住居跡6軒が確認され、苗敷山の信仰が平安時代にさかのばることが明らかになった。今回はそれに続く中世の信仰の場を確認することを目的として調査をおこなった。

調査では、南側に面したテラスに10本のトレンチを設定した。テラスは北から南へ緩く傾斜しており、東側2箇所は若干窪地になっていて、雨期には湿地化することから五穀豊穰の伝承のもとになったと考えられている。この湿地にむけて8本のトレンチを設定し、掘り下げをおこなったところ第1・4号トレンチで平安時代に位置づけられる集石遺構を確認した。前者はこぶし大の砾が長軸4m、短軸2mの範囲で検出し、周囲では10世紀に位置づけられる細かな土器片や炭化物が出土した。後者は人頭大前後の砾が組まれたような状態で検出した。前者と同様、細かな炭化物や遺物が出土した。出土遺物のほとんどは壊破片で、少数だが完破片や須恵器片なども見られた。また第6号トレンチでは棒状鉄製品が、第9号トレンチでは墨書き器片が出土した。

このような調査結果から、山頂の南側テラスは10世紀代に祭祀の場であったと推定される。しかし調査目的であった中世段階の信仰の場所等については依然として課題が多く、今後里宮周辺も含めた範囲で調査をおこなうことが必要である。

##### 3-3 古長禪寺遺跡

所在地 南アルプス市駄沢505外

遺跡名 古長禪寺遺跡



浄光寺遺跡 位置図



苗敷山山頂遺跡 位置図

調査期間 2006年11月17日～11月30日

調査面積 72m<sup>2</sup>

古長禪寺遺跡は、富士川（釜無川）右岸で巨摩山地の前面に位置する市ノ瀬台地上、標高262m付近に立地する。この地域には725（神亀2）年に、西都最大の寺院といわれる西光寺が創建された。古長禪寺は1316（正和5）年、夢窓疎石によって西光寺の寺域の一角に創建されたと伝えられる。古長禪寺の寺域内には、現在も中世段階に位置づけられる石造物が複数所在しており、その中には鎌倉期にさかのぼるものも散見される。このような状況から古長禪寺創建時、もしくは西光寺にかかる遺構を確認する目的で発掘調査を実施した。

調査では、古長禪寺本堂北側に東西2本、南北3本のトレンチを設定した。約5cm～10cmを掘り下げたところ硬化面を検出し、さらに第2号トレンチの一部について掘り下げをおこなうと、地表下70cm地点で古墳時代中期の遺物が出土した。さらにこのトレンチの層位から、版築が施されたことを確認した。版築が施された層位からは、古墳時代から中世の遺物が出土した。このような調査結果から、今回検出した遺構は建物跡の基壇である可能性があり、東西約41m、南北約15mの建物跡が所在していたようである。建物跡の時期はおよそ中世から江戸時代のものと推測される。

また調査区の東側には、今回検出した建物跡と南北の規模が同一の、別の建物跡が所在し、さらに寺の西側には土塁が所在するなど、古長禪寺の前段階の姿が明らかになった。西光寺の当時の姿の解明とともに、今後よりいっそう中世の姿を明らかにしていくことが必要である。

#### 3-4 善応寺遺跡

所在地 南アルプス市大嵐字赤羽根地内

遺跡名 善応寺遺跡

調査期間 2006年12月1日～12月18日

調査面積 111m<sup>2</sup>

善応寺遺跡は甲府盆地の西側山岳地から流れ出る御勅使川が、富士川（釜無川）と合流する地点より5km西側の左岸に立地する。善応寺の創建年代は明らかではないが、1913（大正2）年には本堂裏の山腹にて林道建設時に、平安時代の経塚が発見されたことなどから、平安時代にさかのぼる寺院ではないかと推測される。善応寺の南には中世の山城である須沢城なども立地しており、これらとの関連なども指摘されている。

今回は、善応寺の創建年代を明らかにすることを目的として発掘調査をおこない、さらに善応寺が立地する環境が中世寺院の特徴を色濃く現していることから、現状を把握するために地形測量を実施した。

発掘調査は、大正2年に発見された経塚出土推定地・本堂裏の山腹に位置する湧水地点・湧水地点の上段に位置するテラスの3地点についておこなった。経塚出土地点は、本堂裏山の連続するテラスのうちの一つに立地すると伝えられる。調査は精査を中心におこない、経塚の基底部等の痕跡の確認を目的としたが、今回は確認には至らなかった。また湧水地点を中心に、周囲の清掃発掘をおこなった。湧水地点の東側は自然流路であり、遺構を確認することはできなかったが、西側にはこぶし大から人頭大の礫が集中しており、それらとともに平安時代（10世紀）の遺物が出土した。一方湧水地点の上段に位置するテラスは、北側に井戸が所在するなどかつて建物跡が存在したことを示唆する遺構の存在から、建物跡について確認をおこなうためトレンチを設定し、掘り下げをおこなった。地表下20cmの地点で地山層を確認し、精査をおこなったが木の根などによる攪乱が著しく、遺構を確認することはできなかった。

今回の調査では、善応寺の信仰が平安時代に開始された可能性が高いことを確認した。しかし中世段階に位置づけられる遺構を確認することはできず、引き続き調査をおこなっていく必要がある。



古長禪寺遺跡 位置図



善応寺遺跡 位置図

## 4 県内分布調査

### 4-1 釜無川流域下水道建設事業に伴う試掘調査（堀切遺跡）

所在地 菲崎市龍岡町下条南割地内

遺跡名 堀切遺跡

調査期間 2006年8月22日

調査面積 9m<sup>2</sup> (対象面積9m<sup>2</sup>)

担当者 保坂康夫・長田隆志

試掘調査地点は、堀切橋の北約200mに位置し、道路に埋設する下水道管のマンホール箇所を3m×3mの方形に掘削する部分である。事業地内には「堀切遺跡」があり、東側では菲崎市教育委員会によって発掘調査が行われ、中世後半の遺構・遺物が確認されていることから、学術文化財課から試掘調査の依頼があり、重機による掘削と人力による精査の作業を実施した。

まず、重機によりアスファルトと客土碎石層を取り除いた。その直下から暗褐色粘質土が確認され、人力で確認面を精査したが、遺物及び遺構は確認されず、コンクリート塊が検出されたため再び重機により掘削した。深さ1mで水田の床面と思われる上層が確認されたことにより、床土までを重機により除去した。それより下位は、直径3~5cm程の礫を含む黒色腐植質砂礫層が見られたので、人力によって精査したが遺物や遺構は確認されなかった。地表下約2.4mまでを重機により掘削したが、直径5cm以下の砂を多く含む黒灰色砂礫層が認められ、遺構や遺物の発見はなかった。

試掘調査地点は、花崗岩を含まない黒灰色の砂礫層であることから、御勅使川の堆積物と思われる。堀切を頂点とする扇状地形形成時に河の流路だったものと考えられる。

### 4-2 県道山中湖忍野富士吉田線仮設道路建設事業に伴う試掘調査

所在地 南都留郡忍野村忍草字七嶋1810他3筆

調査期間 2006年8月28、29日

調査面積 65m<sup>2</sup> (対象面積1,123m<sup>2</sup>)

担当者 保坂康夫・長田隆志

試掘調査地点は、昨年度試掘調査を実施した防衛施設周辺道路整備改築事業計画に隣接した場所である。近接して周知の埋蔵文化財包蔵地である「笠原見原遺跡」が位置していることから、遺跡範囲確認を含めた試掘調査を実施することとなった。

仮設道路建設予定地内に3ヶ所の調査溝を設定し、重機による掘削を行った。第1調査溝では、最も北に設置し、幅2.5m、長さ9m、深さ2.5mである。表面は厚さ0.9mの客土で覆われ、直下に厚さ0.4mで暗褐色土の旧表土層が見られた。旧表土層の下は厚さ0.5mの軟質の黒褐色スコリア質土層であった。さらに下位には地表下1.8~2.5mで漆黒色スコリア質土層が存在し、その上面には褐色スコリアブロックが点在していた。深さ2.5mで湧水があり、それより下位への掘り下げを断念した。底面や断面を精査したが、遺構や遺物は確認されなかった。

第2調査溝では、幅2.5m、長さ11m、深さ3mにわたりコンクリートブロック等を含む客土層があり、直下は漆黒色スコリア質土層であったが、深さ4mで湧水があり、掘り下げを断念した。遺構及び遺物は確認されなかった。



試掘調査 位置図（堀切遺跡）



試掘調査 位置図

第3調査溝では最も南に設置し、幅2.5m、長さ6mで、深さ3mの掘り下げを行ったが、客土層を掘り抜き、漆黒色スコリア質土層上面を確認したところで激しい湧水があり、掘り下げを断念した。

調査対象地は、客土層が厚さ1~3mで覆い、地表下2.5~4mで激しい湧水があり、本来の土層は対象地域の北端で1.5m程度が観察できたが、遺構・遺物は確認されなかった。よって、仮設道路の建設にあたっては問題ないものと思われる。

#### 4-3 甲府警察署 千塚文番改築事業に伴う試掘調査（塚本遺跡）

所在地 甲府市千塚1丁目1-15

遺跡名 塚本遺跡

調査期間 2006年9月21日

調査面積 8.5m<sup>2</sup> (対象面積120m<sup>2</sup>)

担当者 保坂康夫・長田隆志

試掘調査地点は、千塚小学校の北西隣に位置し、周知の埋蔵文化財包蔵地である「塚本遺跡」のほぼ中央である。千塚という地名のとおり、数多くの古墳が存在していたものと思われるが、現在では北東方向約400mに県指定史跡の「加牟那塚古墳」が存在しているだけである。

千塚文番敷地内の建物建設予定部分に幅1.7m×長さ5mの調査溝を設定し、重機及び人力による掘り下げを行った。試掘溝の東半部では、地表下60cm部分からコンクリート床張り面が広く認められ、その南側には上水道パイプや浄化槽が埋設され、搅乱が著しかった。一部に赤褐色土層がみられ、土器片2点が確認できたがゴミ等を含む土層であり、プライマリーではない可能性が高い。

調査区西半部では、地表下約40~80cmまで暗褐色客土層で覆われており、その直下に黒色砂質土層がみられた。調査溝の南壁直下に幅50cm、長さ1mのサブレンチを設定し精査したところ、黒色砂質土層中から弥生時代から古墳時代にかけての土器片を数点確認した。黒色砂質土層は厚さ10cmで、西側は表面が東側に向かって傾斜する疊層により分布が止まっており、遺構等の覆土ではなく遺物包含層と思われる。その下は灰褐色砂層で、周囲は浄化槽埋砂層や近代以降の埋土により搅乱を受け、局所的に分布している状況が確認された。

今回の試掘調査結果から、遺物包含層が確認されたものの、分布が建物建設部分西側のごく限られた範囲に限定される上、建物の基礎掘削が50~60cmであり包含層深度の80cmに及ばない深度であるため、工事着手しても支障はないものと思われる。

#### 4-4 都留バイパス建設事業に伴う試掘調査（玉川金山遺跡）

所在地 都留市玉川字上ノ原200-1ほか

遺跡名 玉川金山遺跡

調査期間 2006年11月29日

調査面積 48m<sup>2</sup> (対象面積589m<sup>2</sup>)

担当者 綱倉邦生

都留バイパスは、都留市十日市場から都留市田野倉に至る2車線バイパスとして計画されており、調査が実施された玉川字上ノ原はその第2トンネル地点西南側に位置する。調査地点の東側には玉川金山遺跡が存在している。平成15年度に玉川地区を対象にした試掘調査が行われ、その結果、新規に埋蔵文化財包蔵地として周知した。平成16・17年度には本調査が行われ、縄文・奈良・中世・近世の遺構が検出されている。



試掘調査 位置図（塚本遺跡）



試掘調査 位置図（玉川金山遺跡）

試掘調査地点は、平成16年度に調査を実施した1区に隣接しており、西側には戸沢川がある。平成15年に行われた試掘調査により戸沢川の河道が現在より東側に存在したことが指摘されており、試掘調査地点内に河道の境界が予想された。このため、調査の主眼を、1) 平成16年度調査時の遺構面に比定可能な土層・遺物の検出と、2) 河道と遺構面の境界という2点とした。

調査は南北方向に主軸をもつ長さ5~7m・幅2mの試掘溝を3本設定し、地表下1~2mまで掘り下げた。3号試掘溝は2.1mまで掘り下げを行ったが、砂礫層以外には確認されなかった。1号試掘溝からは地表下85cm、2号試掘溝からは地表下1.1mの位置において1区で検出された遺構構成土に類似する暗褐色土が検出された。このため、東西方向に4号試掘溝を設定したところ、試掘溝底面東側より4mの位置で砂礫層が確認された。また、2・3号試掘溝の間に5号試掘溝を設定したところ、試掘溝底面東側より5mの位置で河道と遺構面の境界が確認された。さらに、1号試掘溝を掘り下げたところ、暗褐色土層中より奈良時代の坏片と甕片が出土した。

調査の結果、調査区の東側に奈良時代の遺物を包含する土壤が面的に確認されたこと、調査対象地の西側は戸沢川の河道により削られていたことが明らかになった。玉川金山遺跡には、奈良時代の集落跡が展開しており、試掘調査地点に遺構が存在する可能性は高く、発掘調査を実施する必要性がある旨を報告した。

#### 4-5 曽根丘陵公園リニューアル整備事業に伴う試掘・立会調査

所在地 甲府市下向山字東山地内

調査期間 2006年11月24日、12月14日

調査面積 30m<sup>2</sup> (対象面積1,800m<sup>2</sup>)

担当者 山本茂樹

曾根丘陵公園は、昭和54年から56年まで発掘調査され、上の平面形周溝墓群が埋設保存されている地域である。今回の事業は、公園内のバベキュー施設の撤去及び設置、遊具の撤去及び設置など公園のリニューアルに伴い、立会調査を実施することとなった。特に曾根丘陵公園内のふれあい広場内では、バベキュー施設の設置に伴い埋設保存されている遺構面の深さを確認することが重要であることから確認調査を実施した。

深度確認調査は、11月24日にバベキュー施設7箇所について、施工業者立ち会いの下で実施した。その結果、埋設保存されている確認面までの深さは5cm~15cmで、一箇所だけは75cmであった。このことにより、事業主体者と再度協議を行い、一箇所を除いた他の施設の設置に際しては、保存遺構に影響を及ぼすことのない盛土工法によって施工することで合意した。

12月14日には、遊具施設設置のため掘削が伴う工事であるが、この地点は遺跡範囲外であること、また、造成が既に及んでいることなどから工事立会で対応した。掘削箇所は、遊具の基礎部分について6箇所である。どの箇所も盛土がされているため地山まで掘削したが、遺構・遺物は確認されなかった。



試掘調査 位置図

#### 4-6 金山川入山沢通常砂防事業に伴う試掘調査（金山金山遺跡）

所在地 上野原市秋山金山4329-2外

遺跡名 金山金山遺跡

調査期間 2006年12月11日～19日

調査面積 28.5m<sup>2</sup>（対象面積48m<sup>2</sup>）

担当者 村石眞澄、芦澤昌弘

金山川入山沢の通常砂防事業地内には、金山金山遺跡の金探掘のための坑口跡1ヶ所があり、この坑口跡は入山沢が浸食した切り立った岩盤の中央に横穴として掘られたものであり、地元での聞き取り調査では江戸時代から昭和初期にかけて金探掘が行われたと伝えられている。

今回の試掘調査では、坑口跡の本調査に先立って平坦地を対象として、遺構遺物の有無と範囲を確認するために2地区を設定して実施した。

試掘第1地区では、第1トレンチから第4トレンチまで4本の試掘溝を人力で掘削したが、遺構・遺物は確認できなかった。試掘溝の断面観察では、山地の斜面の崩壊土を基本とし、畠として利用されていたためか、土壤化が進んだしまりのない表土により構成される堆積層であることを確認した。また、戦前に金探掘を行っていた一家が住んでいた住宅跡がこの付近にあることであったが、現地での地元の方々からの聞き取りにより、今回の事業範囲からわずかに北方に外れることが判明した。この試掘第1地区は遺物遺構が確認できず、かつ平坦地の規模も小さくかつ主流からの導水も困難であり、本事業のための発掘調査は必要ないと判断される。

試掘第2地区は、石垣で保護された平坦地であるが、一部の石垣はすでに崩れおり、さらに石垣が崩壊することを避けるために、山側に第5トレンチから第9トレンチの5本の試掘溝を人力で掘削し調査を行ったが、遺構・遺物とも確認できなかった。

しかし、平坦地は坑口跡最も近く、水を引くことができる平坦地でもあり、古くは金探掘に関わる作業をおこなった場所を水田に転用している可能性もある。また、この平坦地の上方の尾根上には、露天掘りで金探掘を行った痕跡と思われるすり鉢状の窪みが点在し、探掘した金鉱石の選別分離を行った可能性も想定される。つまり、この試掘第2地区については、石垣の破壊により平坦地全体の崩壊が進む可能性が高いため実施できなかつた石垣内側に対して、金探掘に関わる金入り白などの遺物や遺構など有無を確認する試掘調査が必要である。

#### 4-7 国道411号塩山バイパス建設事業に伴う試掘調査（西畠B遺跡）

所在地 甲州市塩山赤尾671番地外

遺跡名 西畠B遺跡

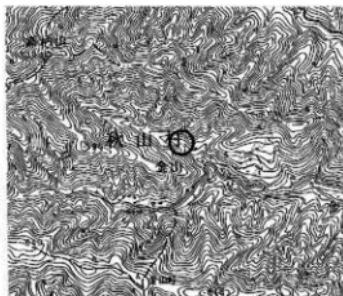
調査期間 2007年2月13日～3月2日

調査面積 162m<sup>2</sup>（調査対象面積387m<sup>2</sup>）

担当者 村石眞澄・大木丈夫

西畠B遺跡はJR塩山駅の南東約500mにあたり、重川が形成した扇状地上の標高約400mの場所に立地する。

今回の試掘範囲は、平成18年7月から9月に発掘調査を実施した西畠B遺跡の調査範囲とは用水路を隔て西側に隣接する西畠B遺跡の範囲内にある。このため先の発掘調査前に行った土木部岐東建設事務所と学術文化財課と埋蔵文化財センターの3者との協議で、試掘調査が必要であることを確認してあった。そこで、用地買収や家屋などの撤去など試掘調査の準備が整ったために、試掘調査を実施した。



試掘調査 位置図（金山金山遺跡）



試掘調査 位置図（西畠B遺跡）

西畠B遺跡は「赤尾の十八人名主」という言い伝えをもち、大きな屋敷が集中する赤尾集落を中心に広がっている。しかも中心的な家には、黒川金山の金山衆と推定される保坂次郎右衛門宛の天正二年（1574）の武田家朱印状一通が伝わっており、中世から継続する古い起源をもつ集落と推定される。このために中世の平地建物などの遺構が存在する可能性があり、人力掘削を主体とする試掘調査を計画した。

試掘調査では、西側の微高地は表土から人力で掘り下げて、丹念に調査を実施した。しかし、中世の遺構は確認でなかったが、北東の旧河道沿いから縄文時代中期末の土器が集中的に出土した。遺物が出土する範囲が非常に狭いために、試掘調査から本調査に切り替え、継続して発掘調査を実施した。

人頭大以上の巨礫が集中する範囲があり、縄文土器もこの範囲の中からまとまって出土している。縄文土器は、試掘範囲の東側の用水路に向かって傾斜もつ黒褐色砂質土に主に含まれている。包含層は粗砂混じりの大礫（拳大以上人頭大以下）～巨礫層の上に形成されており、役割を終えた土器を納める「土器捨て場」と考えられる。

出土遺物は縄文土器などで、その量はコンテナ（長さ45cm×幅30cm×深さ25cm）6箱分である。

#### 4-8 釜無川流域下水道建設事業に伴う立会調査

所在地 蕨崎市龍岡下條南割地内

調査期間 2006年4月13日

調査面積 8m<sup>2</sup>（対象面積45m<sup>2</sup>）

担当者 保坂康夫

立会調査地点は、『甲斐国志』で武田信玄が治水のため御勤使川流路を付け替えるため堀抜いたとされる「堀切」と呼ばれる場所の下流側20m程の場所である。堀切をでた御勤使川は小規模な扇状地を発達させているが、下水道はその扇頂部で御勤使川を横切り設置されるものである。

既に、南岸の南アルプス市野牛島地内での工事に伴い、平成18年3月16日に立会調査を実施している。今回は、北岸の蕨崎市側での工事に伴う調査である。調査は、2m×4mの枠を深さ3mまで重機により掘削し、平面及び断面において遺構や遺物の有無確認を実施した。

地表下1.5mまでは、黄褐色粘土質の土層が見られ、直下にはマンガン分の沈着層が見られることから、水田の床土と耕作土層と考えられる。それより下位は、地表下3mまで掘削を行ったが、直径20cm以下の円礫と砂による砂礫層であった。

調査の結果、土層の堆積状況から扇状地を構成する砂礫層が厚く堆積する地点と思われ、工事掘削の最大深度は地表下9mまであるが、今回は掘削側面が崩落するため安全確保のため3mまで掘削を行った。

現地表から3mまでの間には、遺構や遺物は確認されず、周辺の試掘状況などを考慮すると3m以下に遺跡の存在する可能性は少なく、仮に存在していたとしても遺跡に与える影響は少ないものと思われる。

ただし、この地点の下流で「十六石」と呼ばれる巨礫を配列させた治水施設の存在が推定されており、大型礫列が工事中に確認された場合には、立会調査の必要がある旨を報告した。



試掘調査 位置図

#### 4-9 釜無川流域下水道（富士川3号幹線）建設事業に伴う立会調査

所在地 西八代郡市川三郷町大鳥居地内

調査期間 2006年5月10、11日

調査面積 20m<sup>2</sup>（対象面積25m<sup>2</sup>）

担当者 保坂康夫

立会調査地点は、釜無川と笛吹川と芦川が合流した下流に位置し、明治20年の旧陸軍陸地測量部の地図に堤防が記載されている地点である。現在も堤防として機能しているが、古い堤防が現行の堤防内に埋没している可能性があるとして「山梨県堤防・河岸遺跡分布調査報告書」では「堤防遺跡推定地」とされた場所である。工事施工箇所は、この堤防遺跡推定地の小河川両岸部分である。

立会調査は二日間にわたり、南岸では2m×5mの枠を深さ1.5m

～3mで掘削し、北岸では2m×5mの枠を深さ50cmで掘削を行い、

それぞれ平面及び断面において遺物の有無や堤防構造の調査を実施した。

南岸では、砂質の黄褐色土層が厚さ30cm程で表層にあり、その下位は締まりのない軟質の砂礫層で、この層が堤防本体の土層と思われる。南岸の深掘り部分は、川表側の2m×2mの枠を深さ3mの範囲であるが、土層に変化が見られず、古い堤防体を確認することはできなかった。また北岸では、黄褐色粘土質でクサレ疊を含む山土層が堤防表面を覆っており、近代以降に盛上されたものと思われる。

調査の結果、遺物は確認されず、堤防に伴う石積みや古い堤防体などの構造も確認されなかった。



試掘調査 位置図

#### 4-10 国土交通省大月出張所建て替え事業に伴う立会調査（四本木遺跡）

所在地 大月市駒橋1-7-32

遺跡名 四本木遺跡

調査期間 2006年5月25日

調査面積 4m<sup>2</sup>（対象面積50m<sup>2</sup>）

担当者 保坂康夫

立会調査地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である「四本木遺跡」が存在している。しかし、建物の建て替えでもあり、また面積も狭いことから立会調査を実施する運びとなった。

立会調査は、既存の建物を取り壊した後に、2m×2mの枠掘りで深さ1.5mを重機にて掘削し、遺構及び遺物の確認を実施した。

掘削断面から、土層の堆積状況は、建物基礎を除去した面から深さ30cm程が凹水田層で、その層下底部には厚さ10cm程の赤褐色の床土層が確認された。その下位は厚さ1m程が白色の小砾やスコリアを含む黒褐色の粘質土層、さらに下位は白色の小砾やスコリアを多量に含む暗褐色粘質土層が続き、その上部20cm程が確認できた。

立会調査の結果、調査地点の背後の山地崩壊土層が厚く堆積したものと思われ、遺構や遺物は確認されなかった。



試掘調査 位置図（四本木遺跡）

#### 4-11 芦沢川 火山砂防建設事業に伴う立会調査

所在地 山梨市牧丘町西保中地内

調査期間 2006年8月24日

調査面積 1,000m<sup>2</sup> (対象面積1,000m<sup>2</sup>)

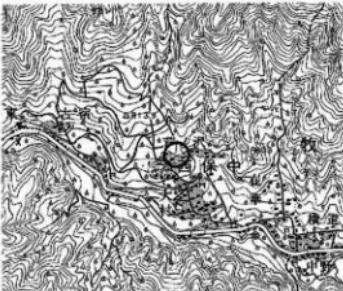
担当者 山本茂樹

立会箇所は、山梨市牧丘町の塩平窪平線に位置する西保中地内の芦沢川である。この河川にダム工事・護岸工事・道路付け替え工事が実施されるため、立会を行うことになった。

事業地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である「東破魔射場遺跡」と「上平遺跡」に挟まれており、周辺にも遺跡が分布している場所である。

工事内容は、河川内の竹林伐採、河川に重機などの工事車両を搬入するための埋め土による道路設置、ダム・護岸工事、そして道路付け替え工事である。

埋蔵文化財については、工事箇所の地形や遺物、工事周辺の遺跡や地形などを工事主体者と現地を踏査し遺跡の有無確認を行った。特に河川工事であるダム工事、護岸工事については、地形などを考慮し河川の現状や遺物採取などを実施した。その結果、河川工事については、①現状の地形が急傾斜地であること、②掘削工事（現状から10mの掘削）が及ぶ箇所については、踏査を行ったが遺物は認められなかったこと、などから工事に際しては立会を必要としない旨を報告した。また、現状の道路については平成19年度に1mの拡幅工事があり、この工事箇所の北側には「東破魔射場遺跡」が存在し、踏査の結果からも平安時代の土器片が確認されていることから、平成19年度事業の工事に際しては、狭い幅ではあるが立会調査を実施する旨を報告した。



試掘調査 位置図

#### 4-12 単独出先の情報ハイウェイ利用に係るネットワーク改修事業に伴う立会調査

所在地 都留市上谷3-2番地 国道139号線

調査期間 2006年9月5日

調査面積 8.85m<sup>2</sup> (対象面積8.85m<sup>2</sup>)

担当者 田口明子

立会調査地点は、谷村城（谷村館）の城下町で町屋と推定されている場所である。

この事業は、国道139号線情報管路に埋設配管を接続し、国道沿いの電柱（上谷）までの間を掘削、配管敷設後、立ち上げ管を設置し、敷設済みの情報ハイウェイ幹線光ケーブルより分岐接続を行い、この管路内への光ケーブルを敷設するものである。工事内容は、幅0.8m、長さ約2.7m、深さ1.26mの範囲を重機により掘削するものである。

その結果、部分的に地山である溶岩の岩盤があり、深さは約0.85m～1.3mの深さで存在していた。道路部分ということもあり、東側では側溝が約0.75mの深さまで埋設され、その下は、暗褐色土の中に径0.1m前後の溶岩が多く含まれる埋土または地山である溶岩の岩盤を形成していた。西側の車道部分では、深さ約0.2mまでが舗装で、その下は約0.6mの厚さで碎石を多く含む埋土、さらにその下は約0.5mの厚さで東側と同じ溶岩を多く含む暗褐色土の埋土であった。このような結果から、今回の工事箇所については、掘削深度が約1.26mで立会を実施したが、遺構や遺物は確認されなかった。



試掘調査 位置図

#### 4-13 南甲府警察署 南甲府駅前統合交番建設事業に伴う立会調査

所在地 甲府市湯田2丁目1-2番地

調査期間 2006年11月8、13日

調査面積 68m<sup>2</sup> (対象面積68m<sup>2</sup>)

担当者 山本茂樹

事業地は、以前民家が建っていた場所であったこと、そしてパイロット工法であることから、立会調査で対応することとなった。平成18年11月8日は、湿式柱状改良（パイロット工法）により、径80cm、深さ5.75mまで掘削が行われ、掘削土とセメントを混ぜ合わせて行われる工法であるため、地表下の状況については不明である。また、パイロット工法によって地表面に出てきた土を確認したところ砂質の粘質土であり、工事工程により80cmの根切りが行われるの



試掘調査 位置図

で、再度掘削時に遺跡の有無確認を行うこととした。

11月13日の掘削工事は、建物の基礎部分のみで表土下約80cmまでである。掘削工程において掘削土の中に遺物の存在について確認したが、遺物は発見できなかった。掘削土は、粘性を帯びた土と砂であった。

南西隅で掘削断面の観察を行ったところ、表土から約50cmまでの第1層は以前の建物による搅乱層、第2層は約22cmの砂の粒子を含んだ灰黒色粘土層、第3層は赤茶色の粘土層で約18cmの堆積があり、第4層は黒褐色粘土層が約7cm、第5層は粒子の細かい砂層であった。この様な状況から粘質土が存在していることにより、水田遺跡の可能性を考慮しながら掘削された各箇所の断面観察を行ったが、水田に伴う畦などの遺構は確認されなかつた。

結果として、表土から約80cmまでの間には、遺物や遺構の存在が確認されなかつたことから、遺跡の存在はないものと思われる。

#### 4-14 史跡要害山遊歩道崩壊による小規模治山事業に伴う立会調査

所在地 甲府市上積翠寺町字上ノ山1479番地外

調査期間 2006年11月21日、12月11日

調査面積 955.4m<sup>2</sup> (対象面積955.4m<sup>2</sup>)

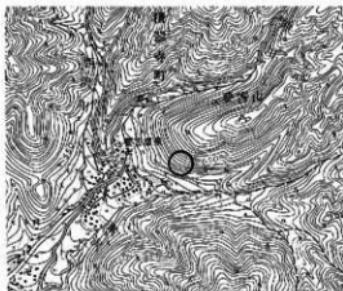
担当者 山本茂樹

立会調査地点は、国史跡要害山の山腹で平成16年10月の台風により崩壊したことから、平成17年度には史跡地内を国が施行し、平成18年度には一部史跡地を含む民有地内の工事のため、県が施行することとなった。

この事業は、昨年度国が施行した地点の下方に丸太橋、土養水路、植栽ネット、受口橋設置（浸透性）、遊歩道の整備を実施するものである。

11月21日には、学術文化財課と当センターで立会を実施した。

遊歩道の崩落については、約半分ほどの幅で崩れており、道から下では土砂が堆積していた。更に下方では、土砂及び木材撤去が行われ、遺構の存在は確認されなかつたため、丸太橋の設置を実施した。12月11日には、甲府市教委と供に立会を実施した。工事にあたり石段や木製の階段が撤去されたが、旧形状に復旧されていた。受口橋については、現状地盤を掘削することなく工事施工計画に基づいて実施されていた。このような結果から、今回の工事箇所については立会を実施したが、遺構などは確認されず、工事については旧形状に復旧されており、立会調査を終了した。



試掘調査 位置図

#### 4-15 長坂郵便局（日野春郵便局移転）建設事業に伴う立会調査（大林遺跡）

所在地 北杜市長坂町上条字大林地内

遺跡名 大林遺跡

調査期間 2006年10月10日、12月6、15日

2007年1月22、24日、2月17日

調査面積 800m<sup>2</sup>（調査対象面積2,000m<sup>2</sup>）

担当者 保坂康夫、山本茂樹

この事業は、長坂町日野春に設置されていた郵便局が、同町大林地内に移転することに伴い、北杜市教育委員会と当センターとで実施することとなった。建物建設にあたり大林遺跡内であることから、地下に影響を及ぼさない方法で実施することとし、掘削が及ぶ用地の東南側の倉庫・車庫用建物部分と北西側の郵便局用建物については、ローム層上面から保護層30cmを確保して基礎を立ち上げ、掘削の際には立会調査を実施することとなった。

10月10日に建設用地の南の擁壁部分と東側の倉庫において立会を実施した結果、掘削に伴い平面及び断面観察を行ったが、遺構・遺物は確認されなかった。

12月6日には、北西側の郵便局用建物部分で立会を実施し、その結果、上層は旧建物により搅乱を受け盛土されていた。基礎部分の掘削について、ローム層上面までの深さは、95cm～110cmであることを確認するとともに、遺構・遺物の確認を行ったが検出されなかった。

12月15日には、前回と同様に敷地のほぼ中央において地下に影響を与えることのないよう立会を実施した。上層は旧建物により搅乱を受けており、ローム層まで達するコンクリートの基礎も存在していた。ローム層上面までの深さは、100cm～168cmであることを確認し、コンクリート基礎撤去については、施工業者との協議にコンクリートだけ抜き取る方法で実施することとした。結果、遺構・遺物の確認を行ったが検出されなかった。

1月22日、下水道管敷設に伴い立会調査を実施した。道路部分では既に下水道管が深さ約220cmまで掘削されており遺構などは確認できなかった。1月24日、配水管敷設工事では、北側で土坑と思われる遺構が約半分確認された。遺構を掘削したところ深さ約20cm、長径約36cmを計測したが、遺構内からは遺物は確認されなかった。2月17日、ハンドホール埋設のための掘削及び電柱の設置による立会を実施した。ハンドホールの箇所については、幅約3m×3mで掘削深度約160cmである。この地点では、搅乱が激しく旧建物のコンクリートなどが混入しており、遺構・遺物は確認されなかった。電柱設置については、ハンドホールの北隣と入り口部の2箇所である。どちらも掘削土中で遺物の確認を行ったが、発見することはできなかった。



試掘調査 位置図（大林遺跡）

#### 4-16 企業局長公舎解体撤去工事事業に伴う立会調査（武田城下町遺跡）

所在地 甲府市元紺屋町110-1

遺跡名 武田城下町遺跡

調査期間 2007年1月15日、23日

調査面積 690.92m<sup>2</sup>（対象面積690.92m<sup>2</sup>）

担当者 山本茂樹

立会調査は、甲府駅の北東に位置する元紺屋町地内である。本事業は、県企業局が所管する公舎で、既存の建物の解体撤去である。事業地は、遺跡台帳に記載されている周知の埋蔵文化財包蔵地の「武田城下町遺跡」内の外角部分であることから、立会調査を実施することとなった。

公舎は、愛宕山の西斜面に位置しており、西には藤川が北東か



試掘調査 位置図（武田城下町遺跡）

ら南西方向に蛇行しながら流れている。敷地は昭和40年代頃に二段に造成されていたため、第1回目の立会は1月15日に下段で実施し、第2回目は1月23日に上段で実施した。

下段の立会では、基礎の脇を掘削した時点での断面観察を行ったところ、約40cmまでは盛土がされており、その下の層では薄茶褐色の砂質粘土で、小石混じりの層であった。この層は南北に水平堆積を示し、コンクリート基礎の下まで広がって存在していたことから地山であることが明らかとなった。下層には、茶褐色の粘質土が堆積していた。掘削土及び断面観察により遺物・遺構の確認を行った結果、遺物や遺構の存在は確認されなかった。

上段では、現状地盤から約95cmまでは造成工事などにより搅乱され、その下では茶褐色の粘質土で小礫を含んだ層が堆積していた。下段で確認された薄茶褐色の砂質粘土層は確認されなかったことから、造成時に削られたものと思われる。掘削土及び断面観察により遺物・遺構の確認を行ったが、それぞれ発見されなかった。

よって、敷地内に遺構が存在していたとしても造成時に削られ、遺構や遺物は確認されなかつたものと考えられる。

#### 4-17 総合教育センター他情報ハイウェイ接続事業に伴う立会調査（塩部遺跡）

所在地 甲府市塩部3-2 県道7号線歩道

遺跡名 塩部遺跡

調査期間 2007年1月18日

調査面積 5.19m<sup>2</sup> (対象面積5.19m<sup>2</sup>)

担当者 山本茂樹



試掘調査 位置図（塩部遺跡）

県情報政策課が発注する情報ハイウェイ接続事業は、塩部遺跡内にケーブルを埋設する工事であり、事業内容から立会調査で対応することとなった。

施工箇所は、甲府工業高等学校の北西側で、掘削は最大深度180cm、歩道部分で120cmである。

敷地内では、約55cmが盛土されていた。断面観察では、現地表から約110cmまでは埋め土、その下約30cmまでは黄茶褐色粘土層、その下は灰青緑色砂質粘土層で、掘削深度は180cmまでであった。平面確認及び断面観察や掘削土を調べた結果、遺構や遺物は確認されなかつた。

歩道部分では、南北に設置された側溝の下にケーブルを通し、歩道の下に敷設する工事で、既設のハンドホールへケーブルを引き込むための掘削である。歩道の下約110cmまでは工事のため碎石などで埋められており、その下にガス管が埋設されていた。事業内容は、現歩道の上面から60cmにケーブルを敷設する関係上、すでに掘削が行われていたためこの時点では立会調査を終了した。

なお、県道7号線下水道敷設事業や道路改良工事について、甲府市教育委員会により試掘調査が実施されており、遺構は確認されてはいないが、今回は敷地内での掘削を伴うことから立会調査を実施したところ、結果的には、遺跡の発見はなかつた。

#### 4-18 県営住宅湯村団地建替事業に伴う立会調査

所在地 甲府市湯村三丁目地内

調査期間 2007年1月25、26日、2月15日

調査面積 400m<sup>2</sup> (対象面積2,000m<sup>2</sup>)

担当者 山本茂樹

本事業は、県営住宅の既存建物を解体撤去する工事である。団地の南東方向の湯村山には古墳が分布し、北東方向約150m先には平安時代の天神平遺跡が存在している。また、約100m先の南には県指定史跡の加牟那塚古墳が立地しており、西方約150m先には榎田遺跡も存在している。このような状況から、建物基礎撤去を実施する際に立会調査を実施することとなった。

1月25日は、11号棟の基礎撤去の際で実施し、深さ約155cmま

での掘削で断面観察を行ったところ、現地表から35cmまでは擾乱

層、2層目は30cmの厚さで青灰色粘土層が、3層目は13cmの厚さで暗褐色粘土層が、4層目は約30cmの厚さで青灰暗褐色粘土層が、5層目は緑灰色粘土層で礫を含んでいた。

1月26日は、11号棟の南東方向にある20号棟の基礎撤去の際で実施し、深さ約135cmまでの掘削で断面観察を実施した。1層は建物による30cmの擾乱層、2層目は30cmの厚さで茶褐色砂質粘土層、3層目は10cmの暗褐色砂質粘土層が堆積し、4層目は32cmの堆積で明茶褐色粘土層が、5層目は灰白色粘土層で大型の礫を含んだ層が確認された。

2月15日は、旧建物の間で実施した。11号棟南付近では、168cmまで掘削したところ、50cmまで擾乱されており、2層目の青灰色粘土層が26cmの厚さで堆積し、3層目は46cmで緑灰色粘土層であった。また、11号棟のほぼ南の22と21号棟の間では、75cmまでは擾乱層、2層目は38cmで暗褐色砂質粘土層、3層目は7cmで茶褐色粘土層、4層目は20cmで青灰砂質粘土層、5層目は8cmで砂層、6層目は30cmで暗灰黒褐色砂質粘土層、7層目は砂層であった。

調査の結果、周囲に川が流れている関係上、氾濫などもあり砂や粘土が堆積したものと判断され、集落を営める場所でもなく、畦などの遺構や遺物は確認されなかったことから遺跡は存在しないものと思われる。

#### 4-19 都留バイパス建設事業に伴う立会調査（玉川金山遺跡）

所在地 都留市玉川字上ノ原200-1他

遺跡名 玉川金山遺跡

調査期間 2007年1月30・31日、2月7日

調査面積 45.1m<sup>2</sup> (対象面積m<sup>2</sup>)

担当者 綱倉邦生・酒井玄曉

立会調査地点は平成16・17年度に調査を実施した2区と4区の間に位置している。平成18年11月7日に行われた現地協議の際に、国土交通省が2区と4区の間に水路埋設の工事を行う予定であると話したため、立会調査が行われることとなった。工事に伴い、1月30日に仮設水路の設置、1月31日に集水橋設置地点の掘削、2月7日に埋設水路の掘削を行ったため、隨時立会調査を実施した。

1月30日に仮設水路の設置を行った。掘削した範囲は水路の西側であり、面積は12.6m<sup>2</sup>である。この結果、北側では第1面の構成土壤である黒色土が検出されたものの、遺構・遺物は確認されなかった。このため、仮設水路設置面までの掘り下げを行った。掘削範囲の中央・南側は表土の堆積が厚いため、第1面まで到達していない。



試掘調査 位置図



試掘調査 位置図 (玉川金山遺跡)

また、南側において集水井設置のために範囲を広げて掘削をしたが、第Ⅰ面の構成土層は検出されなかった。

1月31日に集水井設置地点の掘削を行った。集水井は3箇所設置する予定であり、1.2m×1.6mの範囲を掘り下げた。面積は5.76m<sup>2</sup>である。ここでは集水井を便宜的に南側から1・2・3と呼称する。集水井1では地表下90cmの位置で第Ⅲ面の構成土層である、明茶褐色土が確認された。このため、遺構確認を行ったが、遺構・遺物は検出されなかった。集水井2では1~1.1mの位置で明茶褐色土が確認された。また、明茶褐色土層の上には遺物包含層である黒褐色土層が堆積していた。この黒褐色土層中より縄文時代早期の土器が出土したもの、遺構は検出されなかった。集水井3では地表下10cmで第Ⅰ面構成土層である黒色土層、地表下40cmで第Ⅱ面構成土層である褐色土層が確認されたが、遺構・遺物は検出されなかった。

2月7日に埋設水路の掘削を行った。面積は26.74m<sup>2</sup>である。集水井の1・2間で、地表下140cmの位置より焼土を伴う土坑が2基、集水井の2・3間で焼土を伴う土坑が1基、確認された。これらの土坑は明茶褐色土層より確認されているため、縄文時代早期の遺構だと判断できる。土坑に係わる平面図・土層堆積状況図・位置図・写真等の記録保存措置をとった後に立会調査を終了した。

#### 4-20 釜無川流域下水道建設事業に伴う立会調査

所在地 菊崎市龍岡町下条南割地内

調査期間 2007年2月15日

調査面積 6m<sup>2</sup>（調査対象面積15m<sup>2</sup>）

担当者 坂本美夫

本工事は、平成18年8月22日に立合を実施した下水道管のマンホールより約10メートルの長さで、西北に延びる既存の道路下に下水道管を敷設するものであった。掘削による壁面崩落防止のため、掘削予定地に下水管敷設溝の幅(1.5m)で長さ2mにわたる試掘トレンチを東より1号、2号の2ヶ所設定し、順次掘削を行い、かつ精査・観察を実施した。

1・2号トレンチの上部ではいずれも40cm前後まで、アスファルト、道路路盤の客土碎石層であり、これに続く下部の状況は次の通りであった。

1号トレンチでは、客土碎石層の下に青黒色粘質土が20cmほどの厚さで確認され、その下に暗褐色粘質土層が40cmほど、その下に3~5cmほどの礫を含む黒色腐植質砂礫層を深さ2mまで確認した。なお、黒色腐植質砂礫層は、まだ下方に続くが、確認した上部だけが黒色、下部は褐色を呈していた。

2号トレンチでは、暗褐色粘質土層が1.1mの厚さで確認されたが、この上部20cmほどは道路路盤造成によるものが固くしまっていた。その下は3~5cmほどの礫を含む1号トレンチ同様な色調変化をみせる黒色腐植質砂礫層を深さ2.1mまで確認したが、この層はさらに下方に続くものとみられた。

両トレンチの上層の状況は、ほぼ同一に近い状況にある。その中で1号トレンチの暗褐色粘質土層が薄く、黒色腐植質砂礫層が西方に向かい傾斜して下がっていくことが確認された。しかし、土層は立合部分ではほぼ水平堆積をみており、これらには遺構の掘り込み・遺物について全く確認することができなかった。なお、先の立合で深さ1mほどの位置に確認された水田面と考えられる土層については、今回明確に把握することができなかつた。

以上のことから今回の試掘地点も、先の立合同様に御動使川の堆積物と思われる、河の流路であったと考えられることから、工事を実施しても埋蔵文化財には影響がない。



試掘調査 位置図

#### 4-21 葵農試験場内側溝設置及び簡易舗装事業に伴う立会調査（酒呑場遺跡）

所在地 北杜市長坂町長坂上条621-2

遺跡名 酒呑場遺跡

調査期間 2007年2月21日、28日

調査面積 26.4m<sup>2</sup>（対象面積m<sup>2</sup>）

担当者 山本茂樹

立会調査は、周知の埋蔵文化財包蔵地である「酒呑場遺跡」内であるが、掘削工事は幅が66cmと狭く、掘削深度は66cmであることから、調査は工事立会で実施することとなった。

2月21日、道路部分の掘削では、既に水道管、電線、下水道管が埋設されている関係で、遺構や遺物は確認されなかった。次に北側部分で、長さ6m、幅66cm、深さ65cmを掘削したところ、縄文時代中期後半の上器片と黒曜石片が検出されたが、遺構は確認されなかった。工事の掘削深度は56cmであることから、遺構確認面まで掘削は及ばないものと思われる。

2月28日、前回の続きの立会調査を実施したが、現地表から60cmまで擾乱を受け、一部自然堆積層が確認されたが、遺構は確認されなかった。遺物は、縄文時代の上器片が遺物包含層（自然堆積層）と擾乱層から発見された。



試掘調査 位置図

#### 4-22 中部横断自動車道建設事業に伴う遺跡確認踏査

所在地 中部横断自動車道計画路線内（市川三郷町・身延町・南部町）

調査期間 2007年1月10日～12日、2月5日～9日

計画路線 約28km

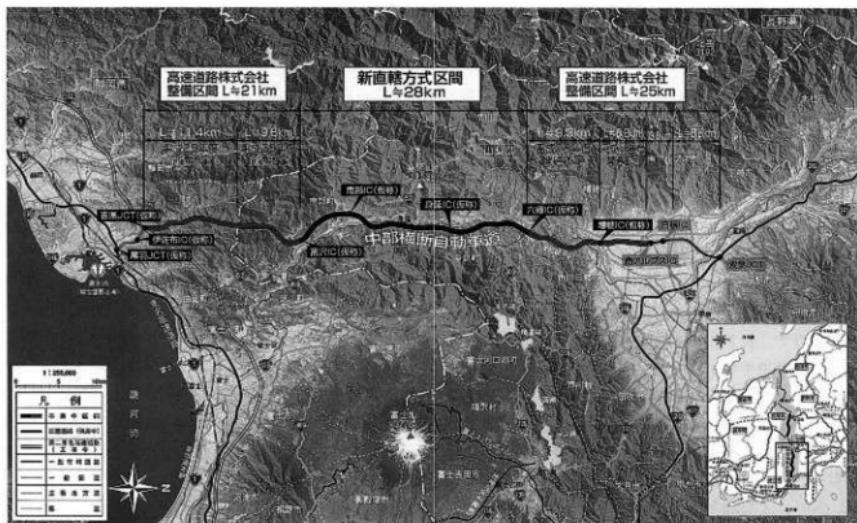
担当者 山本茂樹

中部横断自動車道建設の計画路線を、踏査前に現地確認のため事業主体者である国土交通省甲府河川国道事務所担当並びに県学術文化財課および県埋蔵文化財センターで、平成19年1月10日から12日までの3日間実施した。その後、踏査のための準備を行い、同年2月5日から9日までの5日間、埋蔵文化財センター職員と作業員3名により、市川三郷町六郷インターから南部町富沢インターまで約28km区間の現地踏査を実施した。

踏査前の現地確認であることから期間も短く、平地の場合には遺跡の有無確認を行なながら、写真撮影も実施した。本路線は、富士川の左岸である市川三郷町から南部町までの周知の遺跡をできる限り除けてトンネルや切り土、盛土による施工計画がなされているが、南部町からは富士川を横断して右岸となり、南部町地内では周知の遺跡を通過している。

現地確認では、山林など奥まではいることができなかっただため、更に詳細な調査を必要とすることから現地踏査を実施した。しかし、冬場であることから落ち葉の堆積が多く、遺物などを確認することは困難であったが、地形や遺跡の近く、お寺の存在、墓地の存在など考慮しながら調査を進めた。

その結果、試掘調査の必要が認められたのは全体で24箇所、周知の埋蔵文化財包蔵地は6箇所であった。



踏査状況と路線状況写真

# 第Ⅲ章 県内の概況

## 1 届出件数と内容

平成18年度、県内の埋蔵文化財調査による届出件数については、法92条：2（1）件、法93条：717（699）件、法94条：171（119）件、法96条1（2）件、法97条4（4）件、法99条267（225）件である。届出の総件数は1,162（1,050）件であり、前年度と比較すると、その件数は112件（9.63%）の増加となっている。※（ ）内数字は前年度。

過去19年間の件数の変遷は57頁の表のとおりであるが、平成13年度に減少がみられたものの以後は増加傾向にある。文化財担当専門職員が未設置であった町村も市町村合併によりカバーされたことなどから届出・通知等の必要性がより広く認識されてきたものと思われる。事業目的をみると、法93条では個人住宅などの建物建築が各市町村で共通してきわめて多くなっている。しかし、届出件数について開発行為の多少といった地域的な特徴を考慮しても市町村間における格差が明確になってきている面もうかがえる。

## 2 発掘調査

平成18年度に実施された県内の発掘調査件数は、試掘調査を含めて267（225）件（発掘調査学術調査等含む）となっている。その内訳は、県が15（18）件・市町村が252（207）件である。発掘調査の原因は、道路32（30）件、学校2（2）件、集合住宅12（13）件、個人住宅121（71）件、工場3（10）件、店舗6（13）件、個人住宅兼工場又は店舗6（4）件、その他建物23（23）件、宅地造成19（13）件、土地区画整理5（2）件、公園造成0（3）件、ガス・電気・電話・水道12（6）件、農業基盤4（14）件、農業関係4（2）件、その他開発6（10）件といった緊急調査と、学術調査5（6）件、保存目的の範囲確認1（3）件、遺跡整備2（1）件があった。緊急調査では、地方公共団体が行う公共事業では道路などが目立つもの大きな変動はないが、民間開発における個人住宅は大幅な増加傾向が見られる。※（ ）内数字は前年度。

## 3 県指定有形文化財（考古資料）及び県指定史跡

平成18年度では、平成18年4月27日に北杜市深山田遺跡の青銅製鏡14口が県指定文化財（有形文化財）に指定された。この資料は中世（13世紀から14世紀頃）の密教法具の青銅でつくられた鏡で、平成10年に北杜市明野町の県営は場整備事業に伴う発掘調査によって出土したものである。いずれも鉄造品で、口径10.7cm・高さ3.4cmの大型品と口径7.9cm・高さ3.0cmの小型品があり、底面にはすべて「十」字形の線刻がみられる。県内において、遺跡の発掘調査でこうした中世の密教法具がまとまって出土することは希で、中世密教の在り方を研究する上でもたいへん貴重な資料である。

## 4 発掘調査の成果と保存整備事業

今年度県内各地で行われた発掘調査（学術調査等含む）は、48カ所ある。甲州市天神堂遺跡は、甲府盆地東端の扇状地上にあり、発掘によって縄文時代・古墳時代・奈良時代・平安時代の住居跡がみつかった。中でも縄文時代の土坑から出土した縄文時代中期の土器は動物のような大形把手が付くもので注目を浴びた。韮崎市女夫石遺跡では、縄文時代中期の住居跡18軒と巨石を中心とした廐棄帯がみつかり、居住域との住み分けがなされていたことが明らかにされた。特に廐棄帯にある巨石には裂け目があり、これを意識したかのような石棒などまわりには祭祀遺物が出土し、縄文時代の精神性がうかがわれるものであった。発掘中に現地見学会や発掘体験が開催され、遺跡は現地に埋設保存されることとなり、出土した土偶や石棒などは『発掘された日本列島2007新発見考古速報展』において全国巡回している。北杜市梅之木遺跡では事業計画の変更により、縄文時代中期の環状集落、道、川辺の作業場が保存されている。北杜市頭無A遺跡では、弥生時代末から古墳時代前期にかけての方形周溝墓が調査され、その主体部から鉄剣と鉄製腕輪が発見された。中央市平田宮第2遺跡の第3次調査では、

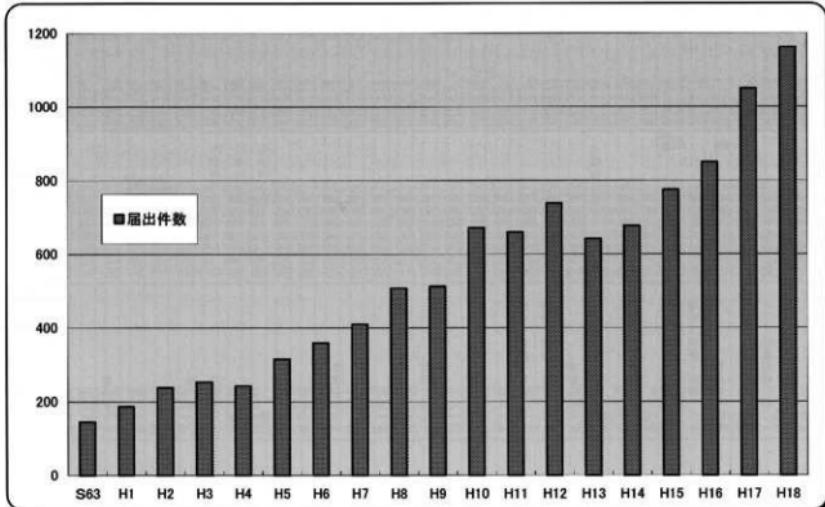
甲府盆地南部の沖積地から平安時代の田畠跡、鎌倉時代の水田跡、さらに平安時代の住居跡8軒がみつかり、この住居跡のカマド構造に木製品の使用が確認された。甲斐市伝常設寺では、中世の五輪塔部材が450点以上発見され、台座の上に塔を安置する形態もあって、中世の供養形態を知る上で貴重な発見となった。中世寺院分布調査によって韭崎市苗敷山頂の遺跡が調査され、平安時代の山中での信仰活動が確認された。都留市鷹の巣遺跡では、16世紀前後の人骨が発見され、勝山城下の形成の経緯を考える貴重な資料となった。甲府地方裁判所の甲府城下町遺跡では、城下町以前の古墳時代から平安時代にかけての土器が発見された。南アルプス市で御勤使河原飛行場跡にかかるはロタコとよばれる第2次世界大戦終戦直前に建設された掩体壕（飛行機格納庫跡）が調査され、その構造等が明らかにされた。

本県には12件14か所の国指定史跡、25か所の県指定史跡があり、これらの貴重な史跡の保存と活用を図るために、指定地の公有地化や保存整備事業が進められています。今年度、国指定史跡では武田氏館跡（甲府市）、新府城跡（韭崎市）、谷戸城跡（北杜市）の整備のための調査や甲斐国分寺跡・甲斐国分尼寺跡（笛吹市）の整備基本構想、甲斐金山遺跡（身延町）の保存管理計画の策定が進められた。県指定史跡では万寿森古墳（伊豆市）、連方屋敷（山梨市）、勝山城跡（都留市）の整備活用を図るためにの調査をはじめ、武田勝頼の墓（甲州市）の保存修理事業、甲府城跡（甲府市）に関わる石垣維持管理工事や山手御門の歴史公園整備が行われた。この他、国指定史跡の武田氏館跡、要害山（甲府市）、新府城跡、県指定史跡の恋塚一里塚（上野原市）では、災害復旧工事が行われた。

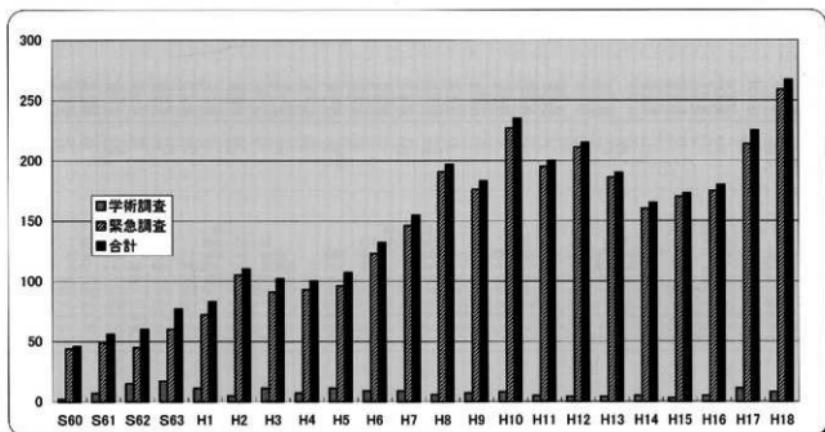
## 5 発掘調査体制

埋蔵文化財専門職員について、県では学術文化財課5名（うち文化財保護担当1名）、埋蔵文化財センター23名（うち教員派遣交流2名、非常勤嘱託5名、臨時職員1名）、博物館2名、考古博物館5名（外に非常勤嘱託1名）である。市町村では、甲府市6名、富士吉田市2名、甲州市2名、大月市2名、韭崎市2名、南アルプス市3名、笛吹市5名（外に非常勤嘱託2名）、甲斐市1名（外に非常勤嘱託1名）、北杜市8名、山梨市2名、中央市1名（昭和町を兼務）、都留市1名、上野原市1名（外に非常勤嘱託1名）、市川三郷町1名、増穂町1名、身延町1名（臨時職員）、忍野村1名（非常勤嘱託）、富士河口湖町1（非常勤嘱託）各1名となっている。埋蔵文化財担当者の配置率は、28市町村のうち20市町村で70%となり、平成15年度の61%（64市町村のうち39市町村）と比べ9%増である。また、担当職員数も54名から9名減の45名（嘱託等含む）の配置状況である。市町村合併や発掘調査事業量の減少に伴い組織編成が行われ、埋蔵文化財専門職員の配置換えによって実質的に配置職員数の減少となっている。また専門職員の退職がここ数年で大きな山を迎えることが予想される。近年発掘調査事業量が減少する一方で、行財政改革が進められるなど、埋蔵文化財行政をとりまく環境は大きく変化しつつあり、実情に見合った適切な専門職員配置は大きな課題である。行政としては、記録保存のための発掘調査の実施にとどまらず、これまでの膨大な調査成果の蓄積を適切に保存・活用し、歴史を活かした地域作りに資するなど、多様な業務を実施し、国民の期待に応えることが求められている。

### 発掘届出件数の推移



### 発掘調査件数の推移



## 2006年度 県内発掘調査一覧表

No.	遺跡名	所 在 地	面積 (m <sup>2</sup> )	遺跡の種類	通過の年代	調査目的	調査主な者	調査期間	
1	松本家塙遺跡	苗代山石と町長本 竹代山塙町川町大坪	8	祭祀施設	古墳・平安 弥生・平安	個人	前次執務委員会	H18.2.2 ~ H19.2.3	
2	石垣未開創遺跡	竹代山塙町八代町永井 100	500	墓	その他の遺跡関係	前次執務委員会	前次執務委員会	H18.2.15 ~ H19.3.31	
3	豊穴遺跡	市原市塙町前田出	100	墓	その他の遺跡関係	前次執務委員会	前次執務委員会	H18.2.1 ~ H19.2.28	
4	仲原遺跡	市原市塙町前田出	700	墓落跡	その他の遺跡関係	前次執務委員会	前次執務委員会	H18.2.13 ~ H19.3.31	
5	宮原遺跡	都留市立能	4	散布地	堤文・溝生	ガス・電気・電話・水道	都留市立能委員会	H18.3.14	
6	日影松原跡	都留市与根	4	散布地	堤文	ガス・電気・電話・水道	都留市立能委員会	H18.3.15	
7	平田富第遺跡	小栗市河東	1,214	墓葬跡	平安・中世	通路	中央市立能委員会	H18.3.10 H19.5.31	
8	(99系に渡せる)	南巨摩郡身延町三沢	200	墓	集会住宅	身延町立能委員会	身延町立能委員会	H18.3.20	
9	宮東遺跡	南巨摩郡市立能	10	散布地	堤文・古墳・中世	宅地造成	南アルプス山林委員会	H18.4.26	
10	(木造寺)	南巨摩郡身延町大野	400	墓	その他の開拓	ガス・電気・電話・水道	身延町立能委員会	H18.9.24	
11	村之内遺跡	北杜市高根町上手	10	散布地	堤文・平安	甲府市立能委員会	甲府市立能委員会	H18.3.10 ~ H19.3.11	
12	廻所遺跡	北杜市高根町五町田	10	散布地	平安	北杜市立能委員会	北杜市立能委員会	H18.3.2 ~ H19.3.23	
13	中原遺跡	北杜市高根町下黒沢	40	散布地	弥生	個人住宅	北杜市立能委員会	H18.3.6 ~ H19.3.7	
14	西原北遺跡	北杜市高根町村山北湖	20	散布地	平安	工場	北杜市立能委員会	H18.3.13 ~ H19.3.14	
15	小村遺跡	北杜市大泉町西井川	20	散布地	堤文・平安	個人住宅	北杜市立能委員会	H18.3.8 ~ H19.3.9	
16	「ツ木D」遺跡	北杜市高根町五丁目	200	散布地	古墳・平安	その他の開拓	北杜市立能委員会	H18.3.17 ~ H19.3.18	
17	口羽田遺跡	北杜市高根町下黒沢	210	散布地	堤文・古墳	宅地造成	北杜市立能委員会	H18.3.15 ~ H19.3.16	
18	泉・上手川遺跡	北杜市高根町上手川	12	散布地	中世・近世	個人住宅	北杜市立能委員会	H18.4.11 ~ H19.4.12	
19	北村遺跡	甲斐市高根町山田	32	散布地	近世	宅地造成	甲府市立能委員会	H18.3.29 ~ H19.4.21	
20	武田城下町遺跡	甲斐市高根町三丁目	50	下町	中世	甲府市立能委員会	甲府市立能委員会	H18.3.29 ~ H19.3.30	
21	21	武田城下町遺跡	甲斐市高根町	20	下町	中世	個人住宅	北杜市立能委員会	H18.3.13 ~ H19.4.14
22	六ヶ神高跡	北杜市高根町東秋	200	散布地	中世	個人住宅	北杜市立能委員会	H18.4.17 ~ H19.4.18	
23	武田城下町遺跡	甲斐市高根町	3	下町	中世	個人住宅	甲府市立能委員会	H18.2.1 ~ H19.5.2	
24	末注遺跡	甲斐市大字桑	150	墓葬跡	堤文・古墳	宅地造成	甲斐市立能委員会	H18.4.13 ~ H19.5.12	
25	宮地第1遺跡	北杜市大泉町西井出	10	散在地	堤文・平安	個人住宅	北杜市立能委員会	H18.3.24 ~ H19.4.25	
26	香原E遺跡	北杜市高根町浅川	10	散布地	平安・中世	個人住宅	北杜市立能委員会	H18.4.20 ~ H19.4.21	
27	木戸遺跡	南アルプス市塙	90	墓葬跡	堤文・古墳	個人住宅	南アルプス山林委員会	H18.4.24	
28	張原Ⅱ遺跡	上野原市上野原	15	墓葬跡	堤文・平安	個人住宅	上野原市立能委員会	H18.4.18 ~ H19.4.19	
29	甲府城下町遺跡	甲府市中央1丁目	1,832	下町	近世	その他の施設	甲府市立能委員会	H19.9.8 ~ H19.12.22	
30	廻所遺跡	北杜市高根町五町田	20	散布地	堤文・平安	個人住宅	北杜市立能委員会	H19.2.20 ~ H19.4.20	
31	武田城下町遺跡	甲斐市大字神	40	下町	中世	個人住宅	中野市立能委員会	H18.3.18 ~ H19.4.21	
32	須原Ⅱ遺跡	上野原市野原	10	墓葬跡	堤文・平安	個人住宅	上野原市立能委員会	H18.4.27 ~ H19.4.28	

No.	運搬名	所 在 地	面積 (ha)	運送の種類	運送の年代	運送目的	運送工具等	運送期間
33	丸原田運送	山梨県大方	300	無荷造	占拠・平安・中世	通路	山梨県教育委員会	H18.4.25 ~ H19.6.9
34	西久保運送	北社市高櫻町小池	30	敷布地	都市	側・住宅	北社市教育委員会	H18.4.25 ~ H19.5.8
35	村添運送	甲府市八ヶ崎町	23	敷布地	平安	住宅地	中野市教育委員会	H18.5.1 ~ H19.5.12
36	武田城下運送	甲府市駒形3丁目	150	城下町	平安	上耕取	甲府市教育委員会	H18.4.19 ~ H19.5.2
37	甲府城下運送	中野市駒形12丁目	20	城下町	近世	側・住宅	甲府市教育委員会	H18.3.17
38	西久保運送	北社市高櫻町小池	134	敷布地	都市	側・住宅	北社市教育委員会	H18.5.9 ~ H19.5.22
39	堀の内運送	南アルプス市八ヶ町	150	無荷造	城文~近世	その他の建物	南アルプス市教育委員会	H18.5.8 ~ H19.5.19
40	南アルプス運送	南アルプス市十日市場	12	敷布地	平安・小量	その他の建物	南アルプス市教育委員会	H18.5.8 ~ H19.5.8
41	百々・上庄運送	南アルプス市上八田	47	無荷造	奈良・平安	宅地造成	南アルプス市教育委員会	H18.4.25
42	前田利家別邸跡運送	南アルプス市野牛ヶ淵	22	裏切地	近世	防護	南アルプス市教育委員会	H18.4.27
43	武田城下運送	甲府市古府中町	12	城下町	中世	側・住宅	甲府市教育委員会	H18.5.22
44	武田城下運送	甲府市古府中町	70	城下町	中世	宅地造成	甲府市教育委員会	H18.5.17 ~ H19.6.2
45	先尾原運送	北社市野野町鬼尾	30,000	敷布地	城文・共生・平安	その他の開発	北社市教育委員会	H18.4.26 ~ H19.3.1
46	岩林新2号	北社市高櫻町西井出	20	敷布地	城文・中世	側・住宅	北社市教育委員会	H18.5.9 ~ H19.5.10
47	石田城下運送	北社市高櫻町山東町	20	敷布地	城文・平安・中世	側・住宅	北社市教育委員会	H18.5.10 ~ H19.5.11
48	石金運送	北社市大泉町西井出	10	敷布地	城文	側・住宅	北社市教育委員会	H18.5.15 ~ H19.5.16
49	堀田運送	北社市飯坂町六八田	200	敷布地	城文・小量・平安	その他の開発	北社市教育委員会	H18.5.16 ~ H19.4.26
50	武田城下運送	中野市宮前町121	25	城下町	中世	側・住宅	甲府市教育委員会	H18.4.21
51	万寿新庄清	甲府市高橋村3丁目	50	古墳	古墳	保存確認	甲府市教育委員会	H18.9.21 ~ H19.5.31
52	甲府城下運送	甲府市駒見12丁目	3,863	城下町	中世・近世	側・住宅	山梨県教育委員会	H18.5.8 ~ H19.10.31
53	新気運送	甲府市新気3丁目	45	無荷造	城文~平安	その他の建物	甲府市教育委員会	H18.5.22 ~ H19.6.2
54	金の尾運送	甲斐市大下条	4	無荷造	城文・中世	側・住宅	甲府市教育委員会	H18.5.22 ~ H19.5.26
55	北社市北山清	北社市北山町八田	30	敷布地	平安	側・住宅	北社市教育委員会	H18.3.15 ~ H19.5.17
56	甲府市新土見1丁目	120	敷布地	古墳・平安	通路	甲府市教育委員会	H18.5.8 ~ H19.5.11	
57	三枝土佐守宇賀敷	北社市高王町東向	10	敷布地	近世	側・住宅	北社市教育委員会	H18.5.25 ~ H19.5.25
58	中野運送	北社市高根町小池	40	敷布地	共生	側・住宅	北社市教育委員会	H18.5.23 ~ H19.5.23
59	下新谷益塙	北社市八ヶ島町谷口	10	敷布地	城文・平安・中世	その他の建物	北社市教育委員会	H18.5.23 ~ H19.5.24
60	天持新庄清	北社市小瀬尻町西上	10	敷布地	城文	側・住宅	北社市教育委員会	H18.5.18 ~ H19.5.19
61	創源舎	北社市高根町下黒沢	10	敷布地	城文	通路	北社市教育委員会	H17.10.4 ~ H19.10.19
62	武田城下運送	甲府市駒見1丁目	4	城下町	中世	側・住宅	甲府市教育委員会	H18.5.30 ~ H19.5.31
63	合谷運送	南風呂富士町下銀河口	2,100	無荷造	城文・平安	通路	山梨県教育委員会	H18.3.10 ~ H19.8.30
64	柳原運送	笛吹市春日居町下弓削	9	敷布地	余興・平安	側・住宅	笛吹市教育委員会	H18.5.22
65	米倉八ヶ島運送	笛吹市八代町米倉	144	無用	城文・平安	側・住宅	笛吹市教育委員会	H18.5.1 ~ H19.5.2
66	平林・下新谷益塙	北社市伊那野町手上	10	敷布地	城文~平安	側・住宅	北社市教育委員会	H18.6.5 ~ H19.6.6

No.	選 試 名	所 在 地	面積 (m <sup>2</sup> )	選試の種別	選試の年代	賞金目的	開催と委託者	開催期間
67	西田・西田向南選舉	信樂山 - 沢町東山	40	築路・地盤踏査	樺文・中壇	195.5.8	苗次郎教育委員会	H19.5.19
68	萬葉・小畠選舉	大野市七條町	3	築路	樺文・平安	H18.5.9	大野市教育委員会	
69	北小畠選舉	北上市武川町原澤	10	敷地	樺文・中壇	H18.5.30	北上市教育委員会	H19.5.31
70	長神子町選舉	北上市長神工町名神子	10	敷地	中也	H18.6.2	北上市教育委員会	H19.6.3
71	墨奈久選舉	信樂・御坂町二之宮	5	裏里	奈良・平安	H18.5.31	苗次郎教育委員会	
72	大坪選舉	門寄・御坂横根町	9	作業道路	1.5強・平安	H18.6.8	甲信吉教育委員会	
73	馬歩門選舉	信樂市川町石浜	78	敷地	樺文・平安	H18.3.15	苗次郎教育委員会	
74	小井ノ瀬選	中央・大字施	1,890	道路	平安・近現代	H18.5.15	山梨教育委員会	H19.8.31
75	紙保山選舉	信樂市御坂町二ノ宮	150	敷地	平安	H18.6.1	苗次郎教育委員会	H19.6.2
76	御井谷・御井村	甲信吉御井元3丁目	7	敷地	中壇	H18.6.6	甲信吉教育委員会	
77	油川瀬・瀬越	北上市大森町西山	10	敷地	樺文	H18.6.12	北上市教育委員会	H19.6.13
78	櫻山半瀬選	北上市板坂町大井・轟	10	敷地	樺文	H18.6.16	北上市教育委員会	H19.6.17
79	枕谷選舉	北上市医安町小笠岡	10	敷地	平安・近世	H18.6.15	北上市教育委員会	H19.6.16
80	甲信城・町選舉	甲信吉中寺一丁目	16	城下町	近世	H18.6.14	甲信吉教育委員会	
81	猪所選舉	北上市高根町五利町	60	敷地	樺文・平安・中壇	H18.6.26	北上市教育委員会	H19.6.30
82	上町北・北瀬	中寺町上条	3	古墳	奈良・平安	H18.6.22	中寺町教育委員会	
83	甲信城・弓削選	甲信吉内2丁目	24	城下町	近世	H18.6.26	中寺町教育委員会	H19.6.30
84	中林選舉	北上市小淵町1番屋	10	敷地	樺文・平安	H18.6.24	北上市教育委員会	H19.6.29
85	石原田・田邊選	北上市高根町人久田	10	敷地	樺文・平安・中壇	H18.6.24	北上市教育委員会	H19.6.29
86	野野瀬選	北上市高根町東井川	10	敷地	樺文	H18.6.27	北上市教育委員会	H19.6.28
87	音羽選舉	中寺町音羽町	3	包藏	弘生・吉綱	H18.6.30	中寺町教育委員会	H19.12.31
88	中丸・豊富	富士・山出山小堀見	1,175	築路	樺文・小質	H18.6.22	富士山出教育委員会	
89	丹波公・高瀬選	忍野・高瀬字橋	4	敷地	樺文	H18.6.26	忍野教育委員会	H19.6.30
90	西海・日赤選	甲信吉中津山赤尾	550	築路	樺文・中壇	H18.7.5	山梨教育委員会	
91	芦苦天・瀬越	甲信吉盛吉3丁目	46	敷地	古墳・平安	H18.6.28	甲信吉教育委員会	
92	上山川瀬選	甲信吉上山川3丁目	86	築路	樺文	H18.7.6	甲信吉教育委員会	H19.7.14
93	墨奈久・金瀬選	苗次郎御坂町塙家	40	里	古墳・余貴	H18.7.3	苗次郎教育委員会	H19.7.4
94	小尾・永尾	各北山・泊町・ノ道	50	余貴	樺文・空氣・平安	H18.6.15	苗次郎教育委員会	H19.6.16
95	墨奈久・瀬越	能代市御坂町二之宮	8	余貴	古墳・余貴	H18.7.3	苗次郎教育委員会	H19.7.4
96	大橋・弓削選	能代山池町上條北側	12	築路	平安・中壇	H18.4.25	能代山池教育委員会	H19.5.2
97	女矢石・瀬越	能代市御坂町百久保	2,500	築路	樺文・平安	H18.5.15	能代市御坂教育委員会	H19.6.31
98	甲信城・町選舉	甲信吉北口3丁目	2	城下町	近世	H18.8.10	甲信吉教育委員会	H19.7.11
99	石橋出・3番瀬選	南アルプス郡野井八幡	12	地盤	近世・近現代	H18.7.12	南アルプス郡教育委員会	
100	日々・八八田選	南アルプス郡野井八幡	3	築路	地盤	H18.6.30	南アルプス郡教育委員会	

No.	地名	所 在 地	面積 (ha)	地類	道路の年代	道路の年代	測量目的	測量上水名	測量期間
101	加賀美町里塚	南アルプス市加賀美	29	新地	古墳・平安・中世	古墳・平安	宅地造成	南アルプス市都市委員会	H18.7.4 ~ H19.7.5
102	猪手作通路	南アルプス市平岡	7	新地	绳文～近世	绳文～近世	個人住宅	南アルプス市都市委員会	H18.8.21 ~ H18.8.21
103	延寺寺道	山梨県山梨合	2,000	新地	平安～中世	平安～中世	道路	山梨県教育委員会	H18.8.8 ~ H19.8.8
104	西郷地B塗跡	甲府市大野町	10	新地	中世・近世	中世・近世	個人住宅造成地	甲府市教育委員会	H18.8.21
105	柳沢河岸跡	北杜市駒ヶ根市尻八幡	110	河岸跡	先民	先民	道路	山梨県教育委員会	H18.7.3 ~ H19.7.31
106	当町B塗跡	北杜市大泉町村山北側	10	新地	绳文・小世・近世	绳文・小世・近世	個人住宅	北杜市教育委員会	H18.7.10 ~ H19.7.11
107	北山市大泉町穴穴平	北杜市山梨町村山北側	10	新地	绳文・平安・中世	绳文・平安・中世	個人住宅	北杜市教育委員会	H18.7.5 ~ H19.7.6
108	杜口通路	北杜市山梨町村山北側	10	新地	绳文・平安	绳文・平安	個人住宅	北杜市教育委員会	H18.7.7 ~ H19.7.7
109	日影山通路	北杜市山梨町下原沢	533	新地	绳文・近世	绳文・近世	道路	北杜市教育委員会	H18.7.5 ~ H19.7.31
110	上臼通路	南都留郡野川村忍草	9	新地	小世	小世	個人住宅	忍野村教育委員会	H18.7.3
111	金の池通路	甲斐市入子原金ノ池	60	余落断	绳文・古墳	绳文・古墳	個人住宅	甲斐市教育委員会	H18.7.6 ~ H19.7.13
112	天平寺通路	都留市寺井	634	東落路	绳文・宋室・近世	绳文・宋室・近世	道路	山梨県教育委員会	H18.7.21 ~ H19.7.28
113	武田城下町通路	甲府市御影3丁目	12	城下町	平安・中世	平安・中世	個人住宅	内宿町教育委員会	H18.7.25
114	信部通路	門脇町信部3丁目	12	新地	弥生～平安	弥生～平安	個人住宅	中野市教育委員会	H18.7.26 ~ H19.7.27
115	横小学校通路	南アルプス市吉田	700	新地	弥生・古墳	弥生・古墳	学校施設	南アルプス市教育委員会	H18.5.5 ~ H19.7.27
116	大曾替通路	甲斐市大曾替	40	新地	中世	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H18.8.3 ~ H19.8.4
117	官銀A塗跡	北杜市山梨町黒沢	10	新地	绳文・平安	绳文・平安	個人住宅	北杜市教育委員会	H18.8.1 ~ H19.8.2
118	下井出通路	北杜市山梨町西井出	10	新地	中世	中世	個人住宅	北杜市教育委員会	H18.7.24 ~ H19.7.25
119	竹原通路	北杜市山梨町御厨原	10	新地	平安	平安	個人住宅	北杜市教育委員会	H18.7.31 ~ H19.8.1
120	次郎櫻通路	北杜市山梨町下原沢	20	新地	绳文	绳文	宅地造成	北杜市教育委員会	H18.7.28 ~ H19.7.29
121	東小山通路	南牧市大代町高家	16	新地	绳文・古墳・平安・近世	绳文・古墳・平安・近世	個人住宅	笛吹市教育委員会	H18.2.29 ~ H19.7.21
122	人蔵谷寺跡通路	南牧市五郎町佐本	15	古寺跡	奈良・平安	奈良・平安	個人住宅	笛吹市教育委員会	H18.7.27 ~ H19.7.28
123	小通路	笛吹市山梨坂町一之宮	15	新地	古墳	古墳	宅地造成	笛吹市教育委員会	H18.8.1 ~ H19.8.2
124	甲斐四分之一通路	笛吹市・富田東原	20	古寺跡	奈良・平安	奈良・平安	個人住宅	笛吹市教育委員会	H18.7.14 ~ H19.7.15
125	可田通路	笛吹市山梨坂町之上	10	新落路	古墳～平安	古墳～平安	個人住宅	笛吹市教育委員会	H18.8.2 ~ H19.8.3
126	飯米山通路	笛吹市山梨坂町久保	25	新落路	绳文～平安	绳文～平安	個人住宅	笛吹市教育委員会	H18.8.1 ~ H19.8.3
127	北田中通路	甲府市山梨町河山	130	無落跡	古墳	古墳	道路	甲州市教育委員会	H18.8.7 ~ H19.9.8
128	竹々・山ノ内通路	南アルプス市山ノ内	2	新地	繩賀跡	繩賀跡	個人住宅	南アルプス市都市委員会	H18.7.31
129	新豊原通路	上野原市新原	28	無落跡	繩文	繩文	道路	上野原市教育委員会	H18.8.20
130	板井里通路	甲府市別所町	10	新落路	奈良～平安	奈良～平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H18.8.10 ~ H19.8.11
131	長川今山通路	豊ヶ原山半周	1,212	繩文～近世	繩文～近世	繩文～近世	道路	山梨県教育委員会	H18.8.14 ~ H19.12.25
132	今井通路	甲府市上井町	23	新落跡	中世	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H18.8.24
133	武田城下町通路	甲府市山梨町3丁目	6	新地	中世	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H18.8.9
134	入倉通路	大月市蘿洲鶴島	4	新地	繩文・平安	繩文・平安	個人住宅	大月市教育委員会	H18.7.4

No.	通路名	所 在 地	面積 (m <sup>2</sup> )	道筋の種類	道筋の年代	調査目的	調査主体者	調査期間
135	日影通路	北川市高根町下黒沢	20	敷地	開拓・近世	北川市教育委員会	H18.8.3 ~ H19.8.4	
136	鬼西久保田通路	北川市高根町下北沢	5	敷地	平安・近世	北川市教育委員会	H18.8.17 ~ H19.8.18	
137	神出通路	甲府市下家3丁目	16	敷地	平安	甲府市教育委員会	H18.8.24	
138	日影通路	大井市能引町惣倉	4	築造路	平安	人月谷市教育委員会	H18.7.25	
139	朝光通路	中野市朝光3丁目	20	築造路	平安	甲府市教育委員会	H18.8.28 ~ H19.9.8	
140	今井先通路	甲府市上今井町	5	城跡	中世	甲府市教育委員会	H18.8.22	
141	今井先通路	甲府市今井町	22	城跡	中世	甲府市教育委員会	H18.8.24	
142	天神3通路	甲府市神戸町	8	敷地	平安	甲府市教育委員会	H18.8.30 ~ H19.9.15	
143	西ノ原刀通路	北川市高根町村山西町	10	敷地	绳文・古墳・平安	北川市教育委員会	H18.9.6	
144	人見通路	北川市高根町牛島	127	築造路	平安	北アルプス市教育委員会	H18.8.29 ~ H19.10.31	
145	大原1通路	北川市白州町白原	20	敷地	绳文・平安	北川市教育委員会	H18.8.30 ~ H19.8.31	
146	中原通路	北川市小瀬沢町中原	10	敷地	绳文	北川市教育委員会	H18.9.4 ~ H19.8.6	
147	池の通路	北川市小瀬沢町上条毛	5	敷地	绳文	北川市教育委員会	H18.8.28 ~ H19.8.29	
148	百々・上八田通路	南アルプス市上八田	11	築造路	平安・中世	南アルプス市教育委員会	H18.8.31	
149	ロタコ	南アルプス市有野・越野	100	飛行場	近現代	南アルプス市教育委員会	H18.9.4 ~ H19.9.22	
150	根本山通路	上野原市上野原町	6	敷地	绳文	上野原市教育委員会	H18.8.4	
151	佐見通路	相模原市野川町草原	1,123	築造路	绳文・平安	相模原市教育委員会	H18.8.28 ~ H19.8.29	
152	茎切通路	相模原市下条南湖	9	敷地	绳文・平安	相模原市教育委員会	H18.8.21	
153	通中根通路	相模原市中根町六丁屋	6	築造路	绳文・平安	相模原市教育委員会	H18.8.22 ~ H19.8.23	
154	東小山1通路	相模原市八代町東家	10	敷地	绳文・平安	相模原市教育委員会	H18.8.29 ~ H19.8.31	
155	卯所1通路	北川市高根町五利田	20	敷地	绳文・平安	北川市教育委員会	H18.9.8 ~ H19.9.9	
156	三ノ瀬通路	相模原市高根町2丁目	4	築造路	绳文・中世	相模原市教育委員会	H18.8.10	
157	武田城1通路	甲府市高根町1丁目	5	城下町	中世	甲府市教育委員会	H18.9.19 ~ H19.9.29	
158	村内通路	甲府市横坂町	60	敷地	绳文・小漁	甲府市教育委員会	H18.9.22	
159	今川1通路	中野市井之口	15	敷地	中・近世	中央市教育委員会	H18.9.22	
160	竹子3通路	北川市山町白沢	2,256	敷地	绳文・平安	北川市教育委員会	H18.9.4 ~ H19.10.6	
161	櫛染1通路	富士河口湖町二ノ宮	6	糸網	绳文・奈良	忍风市教育委員会	H18.9.28	
162	通方原通路	山梨市二ヶ所	830	城跡	中世	山梨市教育委員会	H18.6.1 ~ H19.3.31	
163	小屋1通路	北川市高根町大八田	70	敷地	绳文・平安・小漁	北川市教育委員会	H18.9.27 ~ H19.9.29	
164	小野多通路	北川市高根町大八田	80	敷地	绳文・平安・中世	北川市教育委員会	H18.9.20 ~ H19.9.29	
165	花水木1通路	北川市白州町花水木	10	敷地	绳文	北川市教育委員会	H18.8.3 ~ H19.9.4	
166	信玄通路	北川市長坂町小坂	30	敷地	绳文	北川市教育委員会	H18.9.25 ~ H19.9.26	
167	西堀込1通路	北川市小瀬沢町上条毛	20	敷地	绳文	北川市教育委員会	H18.9.28 ~ H19.9.29	
168	大井通路	北川市長坂町長坂上条	390	敷地	川石器・平安	北川市教育委員会	H18.10.10 ~ H19.2.28	

No.	遺跡名	所在地	面積 (ha)	遺跡の種類	遺跡の年代	調査目的	調査主体	調査期間
169	横手遺跡	北社市長坂町白井沢	5	散布地	绳文・中世 古墳	個人住宅 学者	北社市教育委員会 南アルプス市教育委員会	H18.10.5 ~ H19.10.6
170	物見塚古墳	南アルプス市下市之瀬	10	古墳		個人住宅	北社市教育委員会	H18.10.30 ~ H19.2.28
171	中原遺跡	北社市中原町小笠原	10	散布地		個人住宅	北社市教育委員会	H18.10.3 ~ H19.10.4
172	越後糸山遺跡	苗ヶ木山新坂町二之宮	6	余里	古墳・奈良	個人住宅	皆城町教育委員会	H18.10.18 ~ H19.11.25
173	武出城下遺跡	甲府市相模3丁目	3	城下町	中世		甲府市教育委員会	H18.10.13
174	堀の内遺跡	大月市山吹町馬伏	2	集落跡	绳文・平安	個人住宅	大月市教育委員会	H18.10.6
175	古窯窯跡	北社市中原町曳尾	1,000	散布地	绳文・平安	宅地造成	北社市教育委員会	H18.10.17 ~ H19.10.24
176	浅間原川遺跡	北社市中原町曳尾	2,348	集落跡	绳文・平安	その他の原生 風土基盤影響	北社市教育委員会	H18.10.11 ~ H19.11.15
177	下村遺跡	北社市坂東原川	1,222	谷山地	绳文・平安・中世		北社市教育委員会	H18.10.10 ~ H19.11.10
178	上中丸遺跡	富士吉田市小明見	4	集落跡	绳文・古墳	個人住宅	富士吉田市教育委員会	H18.10.10 ~ H19.10.12
179	甲府城下遺跡	甲府市山吹1丁目	1,400	城下町	近世		山梨県教育委員会	H18.11.1 ~ H19.12.26
180	桃源窟遺跡	甲府市相模3丁目	4	集落跡	弘光～平安	集合住宅	甲府市教育委員会	H18.10.26 ~ H19.11.7
181	堀部遺跡	甲府市相印1丁目	26	集落跡	弘光～平安	佔地	甲府市教育委員会	H18.10.30 ~ H19.10.31
182	中西新2番跡	南アルプス市寺寺	14	散布地	弥生～中世	宅地造成	南アルプス市教育委員会	H18.10.25 ~
183	頼馬八重跡	北社市山吹町原木	2,956	散布地	平安		北社市教育委員会	H18.10.23 ~ H19.12.22
184	黒津遺跡	北社市中原町黒津	20	散布地	绳文・中世	個人住宅	北社市教育委員会	H18.10.23 ~ H19.10.24
185	多賀前遺跡	北社市原玉町人足生田	10	散布地	绳文・平安・中世		北社市教育委員会	H18.10.18 ~ H19.10.19
186	宇山遺跡	中央市萬葉	86	散布地	绳文・古墳・中世	個人住宅	中央市教育委員会	H18.10.25
187	加茂遺跡	甲府市相模4丁目	6	散布地	弘光～平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H18.10.31
188	中畠遺跡	甲府市佐野井町	10	散布地	绳文・古墳	個人住宅	甲府市教育委員会	H18.10.26
189	前御船山掛岩出群石遺跡	南アルプス市古野	450	導防跡	平安～近世	道路	南アルプス市教育委員会	H18.10.09 ~ H18.10.09
190	鷹代遺跡	北社市中原町鷹代	20	散布地	绳文	個人住宅	北社市教育委員会	H18.11.6 ~ H19.11.7
191	中竹1番跡	北社市山吹町白ヶ原	10	散布地	绳文・平安	方丈・電気・電話・水道	中野原市教育委員会	H18.11.9 ~ H19.11.10
192	当門跡	上野原町伊勢方舟	5	散布地	绳文	個人住宅	上野原市教育委員会	H18.11.9
193	市斎山宝生手	苗ヶ木山金剛山東南斜	200	台地跡	中世～近世		山梨県教育委員会	H18.11.1 ~ H19.11.10
194	武田城下遺跡	甲府市山手1丁目	3	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H18.11.13
195	櫛庭駒北遺跡	中巴拿山新坂町神越	40	散布地	中・近世	宅地造成	羽村町教育委員会	H18.11.21 ~ H19.11.22
196	越後糸山遺跡	皆城町布施町野田山	25	余里	古墳・奈良		南アルプス市教育委員会	H18.11.13
197	上の反遺跡	北社市新町村山東斜	10	散布地	绳文・朱生・平安・中世		北社市教育委員会	H18.11.20 ~ H19.11.21
198	須原日遺跡	北社市山吹町山苔	10	散布地	绳文		北社市教育委員会	H18.11.27 ~ H19.11.28
199	豆生出第2番跡	北社市本田町大豆生田	10	散布地	绳文・平安・中世		北社市教育委員会	H18.11.27 ~ H19.11.28
200	武田城下遺跡	甲府市山吹町	4	台地	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H18.11.13 ~ H19.11.22
201	玉川山遺跡	柳原市玉川	589	台地	绳文・朱生・奈良・中	道路	柳原市教育委員会	H18.11.29
202	常安寺	甲斐市左沢	394	台地跡	小世		甲斐市教育委員会	H18.11.13 ~ H19.12.15

No.	通路名	所在地	面積(畝)	道路の種類	道路の年代	渋滞の原因	渋滞目的	渋滞主な歩行者	調査期間
203	人間ヶ池通	上野原市上野原	52	舗装路	楓文・歩行・平安	その他の建物 側へ住宅	山梨県山梨教育委員会	H18.12.6 ~ H19.12.7	
204	甲府城下町通	甲府市城形一丁目	9	城下町	中世	側へ住宅	中野原教育委員会	H18.12.1	
205	武田城下町通	甲府市古市中町	4	城下町	中世	側へ住宅	甲府市教育委員会	H18.12.12 ~ H19.12.19	
206	四本木通	大月市大刀一丁目	3	敷布地	楓文	側へ住宅	大月市教育委員会	H18.11.28	
207	淨光寺	南口寺通御船町	100	住寺跡	中世	道端字街	山梨県教育委員会	H18.0.23 ~ H19.10.30	
208	音元寺	南アルプス市音元	200	寺跡	中、近世	道端字街	山梨県教育委員会	H18.11.26 ~ H19.12.1	
209	例光寺	南アルプス市軒沢	200	寺跡	中世	道端字街	山梨県教育委員会	H18.11.17	
210	野牛島・家臣通	南アルプス市野牛島	15	敷布地	中、近世	側へ住宅	南アルプス市教育委員会	H18.11.15	
211	前頭船代坂	南アルプス市下野邊	10	その他の道路	近世	道端字街	南アルプス市教育委員会	H18.11.29	
212	加賀美東通	南アルプス市市立	5	その他の道路	古墳	側へ住宅	南アルプス市教育委員会	H18.11.30	
213	加賀美東通	北社町新野村山西町	10	その他の道路	古墳	側へ住宅	北社町教育委員会	H18.12.5 ~ H19.12.12	
214	城内A通	北社町新野村山西町	70	敷布地	楓文・平安・中世	側へ住宅	北社町教育委員会	H18.12.4 ~ H19.12.5	
215	北ヶ森B通	北社町新野村山西町	20	敷布地	楓文・平安・中世	側へ住宅	北社町教育委員会	H18.12.3 ~ H19.12.14	
216	中国寺北野路	北社町新玉町東向	10	敷布地	中世	側へ住宅	北社町教育委員会	H18.12.30	
217	柳崎前通	北社町新玉町若神子	235	その他の路	中、近世	道端	北社町教育委員会	H18.12.18 ~ H19.12.22	
218	鳴尾通	中野原市中野原	40	舗装路	楓文・歩生・古墳・奈良・平安・中世	その他の建物	中野原教育委員会	H18.12.14 ~ H19.1.30	
219	中野原城跡・中野原城下町通	甲府市金口二丁目	2,000	城下町	近世	側へ商店街	中野原教育委員会	H18.12.18 ~ H19.1.30	
220	民謡通	甲府市本郷町西	30	その他の路	近世	登場	中野原教育委員会	H18.12.26	
221	昌原小通	北社町吉原町五丁目出	10	無舗装	楓文・平安・中世	側へ住宅	北社町教育委員会	H18.12.25	
222	小田氏正通	苗次山・宮原十坂	690	舗装路	中世	側へ住宅	中野原教育委員会	H19.1.1 ~ H19.1.12	
223	朝光通	中野原春雲	8	敷布地	楓文・歩生・古墳・奈良・平安	側へ住宅	北社町教育委員会	H18.12.14 ~ H19.12.15	
224	西久保通	北社町新保町藏原	20	敷布地	楓文・歩生・平安	側へ住宅・登場	北社町教育委員会	H18.12.5 ~ H19.12.18	
225	楓原A通	北社町川原町山高	1,400	集落路	楓文	その他の農業関係	北社町教育委員会	H19.1.25 ~ H19.12.26	
226	大原A通	上野原市上野原	100	無舗装	楓文・奈良・平安	その他の建物	上野原教育委員会	H19.1.21	
227	西諸地C通	甲府市大里町	1,824	敷布地	中世	宅地造成	中野原教育委員会	H19.1.24 ~ H19.1.31	
228	牧野通	上野原市四方津	8	敷布地	楓文・平安	側へ住宅	中野原教育委員会	H19.1.19	
229	大陰4通	北社町新保町八田	30	敷布地	楓文・中世	側へ住宅	北社町教育委員会	H19.1.10 ~ H19.1.11	
230	小堀柴通	北社町新保町八田	10	敷布地	楓文・平安	側へ住宅	北社町教育委員会	H19.1.10 ~ H19.1.11	
231	円ノ原通	北社町大字町西井川	10	敷布地	楓文・歩生・平安	側へ住宅	北社町教育委員会	H19.1.16 ~ H19.1.17	
232	熊野神社通	小川中野原町和田坂	20	敷布地	中世・近世	土壌の影響	和田町教育委員会	H18.12.7 ~ H19.12.8	
233	金剛證通	中巨摩郡和田坂	20	敷布地	中世・近世	土壌の影響	和田町教育委員会	H18.1.30 ~ H19.1.21	
234	村前通	中巨摩郡和田坂	10	敷布地	中世・近世	土壌の影響	和田町教育委員会	H18.12.26 ~ H19.1.21	
235	大原通	北社町新保町下黒沢	10	敷布地	楓文・平安・中世	側へ住宅	北社町教育委員会	H19.1.24 ~ H19.1.25	
236	浴勝通	北社町新保町下黒沢	145	敷布地	楓文・平安	道端	北社町教育委員会	H19.1.24 ~ H19.1.30	

No.	道 路 名	所 在 地	面積 (m <sup>2</sup> )	沿線の施設	道路の年代	測量目的	測量主任者	測量小委員会
237	下井出道路	北山市新井町人乙生田	20	普通地	樋文・中世 平安	その他の農業關係	北山市教育委員会	H19.1.29 ~ H19.1.30
238	河原道路	北山市新井町大字平生田	30	普通地	中世	通路	北山市教育委員会	H19.1.24 ~ H19.1.25
239	下井出通路	北山市人丸町西井出	30	普通地	中世	通路	北山市教育委員会	H19.1.25 ~ H19.1.26
240	西徳島通路	甲州山・鶴山・神尾	40	普通路	樋文・中世 平安・平成	道路	中州市教育委員会	H19.1.13 ~ H19.2.26
241	治部出道路	北山市新井町西秋	3,000	普通路	古墳・平安 中世	その他の施設	北山市教育委員会	H19.2.21 ~ H19.3.20
242	芥木通路	北山市大字新井西井出	130	普通地	樋文・平安・中世 平安	個人住宅	北山市教育委員会	H19.1.13 ~ H19.2.20
243	甲ノ原通路	北山市人丸町西井出	1	普通地	樋文・学生・平安	ガス・電気・電話・水道	北山市教育委員会	H19.2.19 ~ H19.2.20
244	鈴向削通路	北山市新井十日若神了	50	普通地	中世・近世 平安	その他の施設	北山市教育委員会	H19.2.19 ~ H19.2.23
245	円所城下道路	中野山御殿日	12	城下町	中世・近世 平安	個人住宅	甲州市教育委員会	H19.2.3 ~ H19.2.5
246	中野城下道路	甲州市吉野町	20	城下町	中世・近世 平安	その他の施設	甲州市教育委員会	H19.1.1
247	通野通路	大月市石狩町	2	普通地	樋文	個人住宅	大月市教育委員会	H19.1.24
248	次郎燒通路	北山市人丸町下黒沢	40	普通地	樋文	宅地造成	北山市教育委員会	H19.2.22 ~ H19.2.23
249	番尾通路	北山市新井町御殿上尾尾	140	普通路	中世	その他の農業關係	北山市教育委員会	H19.2.20 ~ H19.2.28
250	扇藏山通路	甲州市吉野寺寺	13	普通地	古墳・奈良・平安	個人住宅	甲州市教育委員会	H19.3.12 ~ H19.3.13
251	中井城下通路	甲州市新井2丁目	12	城下町	中世	個人住宅	甲州市教育委員会	H19.3.15
252	明治通路	中井町北沢	13	普通路	樋文・学生・古墳・奈良・平安	個人住宅	甲州市教育委員会	H19.1.14 ~ H19.3.26
253	中津森通路	新山町合	20	普通路	中世	鉄道	郡山市教育委員会	H18.9.26 ~ H19.10.10
254	大井ヶ森口上通所塚	北山市新井町大井ヶ森	146	普通地	中世	通路	北山市教育委員会	H19.1.12 ~ H19.3.13
255	東ノ東通路	新潟市立谷	3,523	普通地	樋文・奈良・平安	通路	新潟市教育委員会	H18.11.1 ~ H19.3.15
256	火神山西塚	甲府市木曾根	2	普通地	古墳	店舗	甲府市教育委員会	H19.1.19
257	鬼門門通路	新潟市立山町石塚	12	普通地	樋文・平安	その他の施設	新潟市教育委員会	H19.1.13
258	民田城下通路	新潟市立寄小原	3	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H19.2.5
259	人門後通路	甲州市勝利町休憩	65	普通路	樋文・平安	その他の施設	甲州市教育委員会	H19.1.19 ~ H19.2.30
260	かづみ塚	中巨摩郡新潟村飯塚	400	普通路	中世・近世 平安	通路	新潟市教育委員会	H19.2.10 ~ H19.3.31
261	猪只冢通路	新潟市立山町守屋	6	普通路	樋文・学生・平安	ガス・電気・電話・水道	新潟市教育委員会	H19.3.23
262	御堂通路	新潟市立云石町上平井	10	普通地	奈良・平安	宅地造成	新潟市教育委員会	H19.3.28 ~ H19.3.29
263	坪井通上通路	新潟市立山町上平井	4	普通路	奈良・平安	個人住宅	新潟市教育委員会	H19.3.28
264	柳田通路	新潟市立山町懐月	1	普通路	古墳・奈良・平安	その他の施設	新潟市教育委員会	H19.4.27
265	下新兵庫通路	新潟市八代町南	81	普通路	中世	その他の關係	新潟市教育委員会	H19.3.31
266	越子原通路	新潟市立山町西岡	68	普通路	旧石器・绳文・古墳・中世	宅地造成	新潟市教育委員会	H19.2.13 ~ H19.3.2
267	松本ノ通路	新潟市立山町松本	16	普通路	中世・奈良・平安	個人住宅・公施	新潟市文化財研究室	H19.3.1 ~ H19.3.30
268	横山通路	新潟市立山町御殿	2,500	普通地	中世・近世 平安	その他の施設	(株)山梨文化財研究所	H18.8.1 ~ H18.8.7
269	火持堂通路	甲州市新井町下岩崎	1,100	普通地	樋文・平安	その他の施設	(株)山梨文化財研究所	H18.8.7 ~ H18.10.7



## 年報 23

印刷日 2007年11月26日

発行日 2007年11月30日

発行所 山梨県埋蔵文化財センター  
山梨県甲府市下曾根町923  
TEL 055-266-3881・055-266-3016  
FAX 055-266-3882  
E-mail : maizou-bnk@pref.yamanashi.lg.jp

印刷所 株式会社 少国民社  
山梨県甲府市丸の内2-7-24  
TEL 055-226-2125

